

事項五 日仏通商航海条約改定交渉

一六四 一月三十日 松井外務大臣ヨリ
在仏国石井大使宛（電報）

仮領インドシナ総督ノ訪日ニ閣スル件

付記一 大正十二年二月二十三日在ハイフォン中村領事

発内田外務大臣宛電報第一〇号

新任総督メルランノ履歴等回報ノ件

二 同年三月五日在仏国松田臨時代理大使発内田外

務大臣宛電報第一七〇号

メルランノ訪日勧誘ハ暫ク見合スヨウ意見具申

ノ件

三 同年六月一日同右電報第三六七号

メルラン新任総督ノ動靜ニ関シ報告ノ件

四 同年八月二十四日在サイゴン古谷領事發内田外

務大臣宛電報第一九号

サイゴン商業會議所会頭ノ新総督歓迎会場ニ於

ケル演説報告ノ件

第三八号

印度支那協会長黒田子爵ノ依頼ニ依リローラン名誉領事ヘ

左ノ趣御伝ヘヲ乞フ

（付記一）

大正十二年三月五日在仏国松田臨時代理大使発内田外務大臣

宛電報第一七〇号

メルランノ訪日勧誘ハ暫ク見合スヨウ意見具進ノ件

（二月六日接受）

（付記二）

貴電第八六六号ニ閲シ

（付記三）

大正十二年三月五日在仏国松田臨時代理大使発内田外務大臣

宛電報第一七〇号

メルランノ訪日勧誘ハ暫ク見合スヨウ意見具進ノ件

濟的發展ヲ策シ一九〇八年赤道ア弗利加総督トナリ難闊ヲ
凌ヒテ經濟的基礎ヲ固メ木材貿易ヲ獎励シ寄与スル所アリ
且旧「コンゴー」開発ノ為メ一億七千万法ノ公債募集ニ関
シ議会ノ協賛ヲ得大戰中独逸ニ割譲シタル「コンゴー」ヲ
回復シ其ノ他功勞ヲ以テ仏國官報ニ表彰セラレ一九一七年

「マダガスカル」ノ總督トナリ一九一八年ヨリ一九一九年

迄平和會議委員トナリ一九一九年西部ア弗利加総督（前電
ニ知事トセシハ新聞ノ誤報）トナリテモ戰後ノ秩序回復ニ
農事試驗場ノ開設ニ綿花耕地ノ補助ニ必要ナル租稅ノ設定
ニ顯著ナル治績ヲ示シタルモノノ如シ同氏ハ當領ニ在住セ
シコトナク又現任代理総督「ボーデアン」氏ハ永年當領ニ
テ出身セシ人ナレハ從前ノ關係ハナシト思ハル又「ボーデ
アン」氏ハ同氏着任後ハ予定ノ如ク帰国スルカ又ハ旧任地
キニ依リ当分之カ補佐ニ必要ナル総務長官ノ人選ニ重キヲ
措クヘシトハ新聞ノ説ク所ナリ

同氏ノ人物ニ付テハ間接ニ取調中解リ次第追報スヘシ着任
時期ハ未定ナリ

在仏大使及西貢領事へ転電セリ

仮領印度支那総督メルラン氏カ今春日本ヲ訪問スヘシトノ
報道ハ本邦朝野ニ好感ヲ以テ迎ヘラレツツアルカ本件ニ関
シクローデル大使ヨリハ右訪問ノ件至急公式ニ決定セラレ
度キ旨本月二十五日仏国外務省宛發電セル趣ナリ就テハ貴
下ニ於テモ遲クモ本年五六月頃マテニ総督ノ訪問実現スル
様充分御尽力願フ

（付記一）

大正十二年二月二十三日在ハイフォン中村領事發内田外務大
臣宛電報第一〇号

新任総督メルランノ履歴等回報ノ件

第一〇号

（一月二十四日接受）

貴電（省略）第七号ニ閲シ新聞ノ報道ニ依レハ「メルラン」氏ハ當
年六十三歳ニシテ在仏大使往電第一三六号（省略）ノ通一八八七年
植民地官吏ノ官歷ヲ初ムル前五年間軍隊生活ヲ為シタルコ
トアリ其後「セネガル」「コンゴー」ニ歴任シ「マルチニ
ック」ニ書記官長タリン時代大同盟罷工ヲ鎮静シテ其能力
ヲ知ラレ次テ一九〇二年西部ア弗利加ニ赴キ同植民地ノ經

総督ニ本邦立寄ヲ勧誘スルハ日本側ニテ如何ニモ自己ニ都
合善キ宣伝ヲナサントスルモノノ如ク邪推セラル虞アル
処「ローラン」ノ探聞スル処ニ依レハ新任総督ハア弗利加
通ナルモ印度支那ハ今回カ始メテニシテ而カモ役人出ニテ
政治家ニアラス植民大臣「サロー」カスノ如キ人物ヲ総督
ニ任命シタルハ實ハ來年ノ選挙ヲ済マセタル後同大臣自身
ニ過キス從テ「メルラン」カ印度支那ニテ成功スルハ其ノ
欲スル處ニアラサル事情アリトノコトニテ「ローラン」ノ
意見ニテハ今「メ」ニ本邦立寄ヲ勧誘スルハ啻ニ前記ノ如
キ邪推ヲ招クノミナラス正ニ植民大臣ノ希望セサル次第ヲ
申出ツルコトトナリ却テ惡結果ヲ生スヘク又役人出ノ總督

ニ來朝ヲ求ムルモ実効渺々寧口「サロー」ノ就任若ハ「サロー」ニアラストモ政治家出身ノ総督ノ就任ヲ俟テ來朝ヲ求ムルヲ得策トスヘシ但「メ」一旦着任後夏季休暇例へハ本年八月頃改メテ避暑旁々本邦ニ赴クハ別問題ナル可ク又客年末「ロン」総督帰任當時予テ計画セル本省員印度支那派遣ノ件ハ総督交送後モ有要ニシテ殊ニ本省員ト談合ノ結果ヲ本国政府ニ伝達セシメ改メテ巴里ニテ協議スルコトトセハ事件ノ解決上有利ナルヘシトノコトニテ若シ本官ニ於テ同感ナラハ「メ」ノ着巴ノ頃ヲ見計ヒ同人ヨリ暑中休暇中来朝ノ件並本省員ト会合ノ件ニ付「メ」ニ勧誘相試ムヘシト申出タルニ付右ニ同意シ置ケリ右様ノ事情モアリ旁々新任総督ノ赴任ノ途次本邦立寄勧誘ノ件ハ暫ク見合ハシテハ如何カト存ス

(付記三)

大正十二年六月一日在仏國松田臨時代理大使発内田外務大臣宛電報第三六七号

メルラン新任総督ノ動靜ニ関シ報告ノ件

第三六七号

(六月二日接受)

客年機密往信第四四号ニ關シ

五月二十九日「ローラン」非公式ニ「メルラン」新総督ニ面会シタルカ使節特派ニ関スル從来ノ成行ハ予メ秘書官ヨリ提出シタル「ノート」ニ依リ承知シ居リ新総督モ右計画ニハ異存ナク唯本問題ハ自分モ任地ニ於テ研究シタケレハ使節ハ自分ノ着任二個月後位(多分十一月頃)ニ派遣セラルコト望マシキ旨ヲ語リタル趣ナリ
石井大使近ク帰任ノ趣ヲ伝ヘタル處同総督ハ大使トノ會見ヲ希望シタル由ナレハ大使帰任後同総督「サロー」植民大臣其他關係者ヲ招シテ会食テモスル様日論見中ナリ尚新総督ノ出発ハ目下六月末ノ予定ナルモ植民地ニ関スル予算討議終了ヲ俟チ居ルニ付出发ハ七月十日位トナルヤモ知レサル由

(付記四)

大正十二年八月二十四日在サイゴン古谷領事発内田外務大臣宛電報第一九号

サイゴン商業會議所会頭ノ新総督歡迎会場ニ於ケル演説報告ノ件

第一九号

(八月二十五日接受)

当地商業會議所会頭ハ此程會議所主催ノ新総督歡迎会場ニ於テ商業農業両會議所植民地会其他ヲ代表シ歡迎ノ辭ト共

ニ種々ノ問題ニ付希望ヲ述フル所アリタルカ内関税問題ニ就キ現行関税法ハ不合理不公平ニシテ仏國品力無税ニテ當領ニ輸入セラルルニ当領産ノ或ル商品及食料品等カ仏國ニ於テ輸入税ヲ課セラルルハ吾人ノ是認シ能ハサル所ニシテ當領関税制度ハ全然改正セラレautonomieノモノトスル必要アリ尚当領ヲ經濟的見地ヨリ隣接市場ヨリ商品ノ輸入ヲ防カサルヘカラサルカ之ニ付特ニ総督ノ注意ヲ請ヒタキハ数年来吾人ヲ脅威シ最近特ニ問題トナリタル日仏協約カ當領ニ齎スヘキ危險ニシテ該協約ハ完全ナル經濟的侵入ニシテ本国ノ商業ヲ衰頽ニ導クハ勿論当領ニ不幸ナル結果ヲ誘致スルニ至ルヘキヲ以テ当領ヨリ此種事件ノ發生ヲ未然ニ防ギ若シ發生ノ場合ニハ我商工業ノ利益防禦ニ必要ノ手段ヲ執ラサルヘカラス而シテ吾人ノ見解ニ依レハ只関税ノautonomie制度カ之ニ適當ノ方法ヲ与フルナルヘシ云々ト述ヘタリ

右ハ素ヨリ関税制度ノ改正ヲ主眼トスルモノナルモ之ニ依リ當商業會議所等ハ當領ニ對スル日仏經濟協約ノ成(立)

ヲ喜ハス飽ク迄我商品ノ輸入ヲ防止セントスル從来ノ態度ヲ支持シ居ルモノナルコトヲ察知シ得ヘシ(總督ハ会頭ヨ

一六六 二月十三日 在仏國石井大使ヨリ
植民省ニ接到シタル旨通報ノ件 (二月十四日接受)
第六六号

本邦訪問ニ関スルインドシナ總督ノ申出仏國
(二月三日接受)
第六六号

「ヨーラン」ヲ左ノ通り

印度支那総督ヨリ本邦訪問、関スル申出植民省ニ接到シ由下順調ニ詮議方取連ヒツツアル旨十三日同大臣官房長ヨリ通報アリタリ

一六七 二月二十一日 松井外務大臣ヨリ
在ハイフォン森領事宛（電報）

ヘ・ハ・ニ・ハ・ト・総督ノ訪日ニ關ハ通報ノ件
付記 二月二十一日駐日クローネル大使発黒田マムシナ協会長宛書簡
イン・シ・ナ・総督ノ訪日ニ關スル件

第四号

石井大使発本大臣宛電報第七六号ニ關ス

本邦印度支那協会長ハ同総督カ今春日本ヲ訪問スルヤリ近聞ヤシ趣ヲ以テ在日里「ヨーラン」名著領事ニ対シ右ハ本邦朝野ノ歓迎スル處ナルニ付之カ実現方植民省ニ申入レンシメ尚予テ本件実現ニ賛意ヲ有スル在本邦仏國大使ハ尽力セアリ愈々実現ノ運ニ至リシヤノナリ右事情念ノ為電報ス

（付記）二月二十一日駐日クローネル大使発黒田マムシナ協会長宛書簡

REPUBLIQUE FRANCAISE
AMBASSADE
DE LA
AU JAPON

Mon cher Vicomte,

J'ai le plus grand plaisir de vous informer que, répondant au désir que vous avez eu l'occasion plusieurs fois de m'exprimer, Son Excellence M. Merlin, Gouverneur Général de l'Indochine, se rendra au Japon au mois de mai prochain pour exprimer ses condoléances au Gouvernement Japonais à l'occasion de la récente catastrophe et ses félicitations au Prince Régent pour son mariage.

Je me félicite avec vous de ce voyage qui est destiné à établir entre nos deux pays des liens plus étroits de sympathie et de compréhensions réciproques et je vous prie d'en porter la nouvelle aux membres de votre Société./.

ヘ・ハ・ニ・ハ・ト・英米ヲ會晤ハツ・タル事ニコヽル

八総報道ノ件

第一三一號

二月「ヨーラン」ヘ Steele ヘ倫敦特電トシテ仏國バ英國ヨリ満足ナル保障ヲ得サル場合日本及ヒ露國ト同盟バシムテ英米ヲ會晤シシトテ

仏國対日提議ノ内容ハ日本カ英國又ハ米国ト戰フ際印度支那ノ海港ノ使用ヲ日本ニ許容セントベルニアリトノ報道ヲ掲ケタリ何等御参考迄

在米大使ヘ転電セリ

二月二十一日（二月二十二日接受）松井外務大臣ヨリ
在ハイフォン森領事宛（電報）

ヘ・ハ・ニ・ハ・ト・総督ノ訪日ニ關ハ松岡囑託ヲ出張

セシメル旨通知ノ件

第七号

往電第四号ニ關シ密月二十六日付テ在本邦仏國大使ヨリ「マルク」総督ハ震災ニ対シ同総督及仏國政府ノ慰問ノ意ヲ日本政府及国民ニ表彰スルカ為メ來朝シ其機会ニ於テ攝政殿下ニ御成婚ノ御祝詞個人トシテ面上シ度キ意向ヲ

語レリ

一六九 二月二十一日（着）在シカゴ重松領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

仏國ハ英國ノ滿足ヲ保障ナキ場合印日露上回盟

五 日仏通商航海条約改定交渉 一六八 一六九 一四〇

ヘ・ハ・ニ・ハ・ト・総督ノ訪日ニ關ハ通報ノ件

Tokyo, le 21 Février 1924.

有スル旨申越シタルニ付本大臣ハ同総督ノ來朝ハ政府ノ欣快トスル処ナル旨回答セリ

右ニ関シ本省ヨリ松岡囑託ヲ印度支那協会理事ノ資格ニテ出張セシムルコトナリ第一南洋丸便ニテ二十四日貴地着ノ予定ナリ同人ハ専ラ歓迎準備打合ノ為メ出張スルモノニシテ何等外交上ノ開談ヲ為スノ使命ヲ有スル次第ニアラサルヲ以テ貴官ハ其御含ニテ可然同人ト連絡ヲ保タレ度シ在仏大使ヘ転電アリ度シ

一七一 四月二日 在ハイフォン森領事ヨリ
松井外務大臣宛

インドシナノ條約加入ニ対スル現地官民ノ輿論、邦人ノ經濟進出ニ対スル意見等報告ノ件

通機密第九号 (四月二十一日接受)

大正十三年四月二日

在海防

領事 森 新一 (印)

外務大臣男爵 松井 慶四郎殿

印度支那ノ條約加入ニ対スル當地官民ノ輿論

等回答ノ件

貴電第一一號ヲ以テ御來訓ノ三件左ニ回報申進候
一、印度支那ノ條約加入ニ対スル官民ノ輿論
本項民間ノ輿論ニ関シテハ去月三十一日付通送第四一號「メルラン総督一行ノ日本行發表ニ際シ新聞紙上ニ頭ハレタル対日輿論」同二十一日付通機第七号「關稅問題ニ関スル河内商業會議所長ノ意見」等ニテ御承知相成度尚客年十月十七日付報送第一二八號「印度支那開放論者ノ代表の新聞論說」及本年三月五日付欧送第三〇號「對日思潮ノ交流トモ見ラルヘキ新聞記事」等モ御参照相成度候
当海防ハ河内ヲ去ルコト遠ク從ツテ平素河内ノ高級官憲ト接觸ヲ保ツ機會無之為メニ當該官憲ノ意向ヲ探知スルノ機ナキモ所謂「官辺ノ輿論」ナルモノニ付テハ特ニ之レナシト断言シテ誤リナカラント思考致シ候今回總督ニ隨行スル印度支那稅關長 Kircher 氏トハ常ニ書翰ノ往復ヲナスモ今日迄面語ノ機ナク過日小官河内ニ出向ノ際ハ同氏ハ生憎養痾引籠中ニテ面会出来ス從テ今回ノ經濟調査委員ノ一人トシテノ同官ノ意向ヲ探ル機ナキモ從来ノ成行ヨリ察スルニ現時ノ印度支那經濟及商業政策ハ一々「サロウ」氏ノ方寸ヨリ割出サレ其「サロウ」氏ノ背後ニ有力ナル印度支那

商工農事委員会 (大正十二年四月三十日付通機第一〇號參照) アリテ「サロウ」氏ヲ動カシ居ルコトハ争フヘカラサル事實ナリ換言スレハ從来ノ印度支那經濟商業政策ハ東京

紡績会社、東京セメント会社、東京亜國炭鉱会社、印度支那銀行及印度支那ノ特權会社ニシテ強力ナル經濟團体トシテ知ラレタル印度支那酒造会社 (大正十二年八月二十九日付通送第一〇六號) 外国人ノ法律上ノ地位取調回報ノ件中第七項参照) 等ヲ重鎮トシテ之レヲ囲繞スル各種商工農業者ノ團体タル同委員会ノ政策ナリ然シテ消費者タル印度支那一般有識者ハ漸ク之レ等委員会一味ノ横暴ナル利益壟斷主義カ印度支那ノ公益ニ背馳スルコトヲ感付キ始メタル今日「サロウ」氏ノ政策ヲ奉スル所謂「官辺ノ輿論」ナルモノカ民間ノ輿論ヲ無視スルコト能ハサルヘク殊ニ今回政界ニ於ケル「サロウ」氏ノ失脚ハ同委員会ニ取り大ナル痛手ナルコトハ平素同氏ト同会ノ關係ニ留意スルモノノ周ク知ル所ナリ

カ我レニ利アルコトハ確実ナリ
二、印度支那ニ最低税率ヲ課セラレタル場合ニ於ケル本邦品需要狀況
最モ重要ニシテ且ツ有望ナルハ安南人ノ需要スル綿品需要狀況

(イ) 編製品

織物、メリヤス及綿糸ナリ

(ロ) 本邦雜貨

漆器

陶器磁器

帽子

木製品 (益類其他)

時計

革製品 (手提類)

硝子鏡

各種ブラッシ (刷毛) 類

蝙蝠傘及其部分品

扇子

玩具

鉛筆

商工農事委員会ノ巴里政界ニ於ケル勢力カ旺盛ナル限り又此レヲ屏息セシムルコト能ハサル限り日印問題ノ解決ハ依然難事中ノ難事ニ相違ナキモ印度支那ニ於ケル輿論ノ趨勢

ニッケル製品

アンチモニー製品

(ハ) 絹織物(殊ニ土人向支那風織物紋縞子ノ類)

(二) 電球

(イ) 金属類

鉄製品(鉄品鉄線鉄板類)

真鍮(棒、板)

銅線

印度支那総人口約二千万ノ内最モ多数ヲ占ムルハ土着種族中ニテ比較的文明ノ度高キ安南人ニシテ其数約千五百万ト称セラル支那人ノ移住スルモノ約三十五万白人ノ殆ント全部ハ仏人ニシテ僅カニ二万四五千ニ過キス其他ハ安南人以外ノ土着種族支那人及白人以外ノ外国人トス從ツテ本邦品ノ主タル顧客ハ安南人ニ在ルヲ以テ主トシテ実用向日常必需品ヲ要ス贊沢品即チ七宝焼、象牙細工、九谷焼、薩摩焼ノ類ニ至リテハ少數仏人需要アルノミ重キヲ置クニ足ラス

三、本邦資本ノ有利ニ投資シ得ヘキ事業

石炭、亜鉛等ノ鉱山事業ノ有利ナルハ云フニ及ハス全土殆

ニ外人若クハ外人ト仏人力共同スル鉱山事業ノ經營ヲ防止スルノ趣旨ニ外ナラス然モ其當時ハ我三井鉱山会社ト当地ノ或仏人鉱山持主トノ間ニ有利事業ノ協定方サニ調ハントスル時ナリシモ俄然此法規ノ發布ヲ見三井ハ手ヲ引カサルヲ得サルニ到リタリト聞ク要スルニ外国人殊ニ日本人カ一事業ヲ企テントセハ必スヤ種々ノ難問題ニ逢着シテ結局其实現ハ不可能トナルヘク又何等カノ形式ニ依リ外国人(寧口日本人ト云フ方適切ナラン)ノ經濟的發展カ具体的トナリテ頭ハレントスルヤ前記鉱業特許権条例類似ノ大統領令(無論商工農事委員会ノ主動ニ依リ)發布サレ若クハ臨機ノ行政命令ヲ発シテ之レカ發展ヲ妨ケ撲滅ヲ期スルハ蓋シ察スルニ難カラス

印度支那ノ法規ニハ外国人ノ土地所有權ニ関スル徹底的規定ナク且ツ外国人ヲ亞細亞人ト亞細亞人以外ノ外国人ニ別ケ其亞細亞人中又支那人ヲ区別シ(殊ニ經濟的優遇ヲ与フル為メ)不動産所有ニ関スル法規ノ適用ヲ異ニス日本人ハ亞細亞人中ノ除外例トシテ法律上ノ地位ニ於テハ歐米人ト同等ノ資格ヲ有スルモ日本人カ果シテ完全ナル土地所有權ヲ有スルヤ否ヤハ極メテ曖昧ニシテ法律家ノ意見一致セス

ント石灰岩ニ依リテ構成サレ石炭豊富ニシテ粘土ニ富ミ劣銀低廉ナルコト比類ナク東京湾ヲ擁シテ船舶ノ出入容易ナル東京州ノ如キハ世界的「セメント」工業地タルノ天恵ヲ有ス安南山脈無限ノ森林海ニ近キ所木材事業ニ適スヘク稻田ノ經營漆樹ノ栽培、珈琲、護謨樹、甘蔗等ノ栽培事業又頗ル有利ナルヘシ

然ルニ外資ノ輸入ヲ防キ外国人ノ經濟的發展ヲ阻止スルヲ以テ主義トスル即チ商工農事委員会ノ主義ヲ奉スル仏領印度支那政府ハ一九一八年法ヲ設ケテ鉱山ノ採掘権ヲ獲ントシ又ハ下渡シヲ受ケントスル会社又ハ個人ハ予メ總督ノ特許ヲ受クルコトヲ要ストシ右採掘権又ハ下渡シ鉱区ノ讓渡又ハ移転ハ其如何ナル名義ニ於テスルモ總督ノ特許ヲ受ケタル会社又ハ個人ニ対シテ為スニ非スンハ無効ナリトシ此總督ノ特許ハ理由ヲ告クルコトナクシテ拒絕スルコトヲ得ヘク又一旦与ヘタル特許モ總督令ヲ以テ其理由ヲ示スコトナク之レヲ撤回スルコトヲ得トシ此總督令ノ命スル所ニ對シテハ利害關係者ヨリ何等ノ補償又ハ損害賠償ヲ要求スルコト能ハスト規定シタリ(一九一八年七月二十六日發布印度支那鉱山特許ニ關スル大統領令)此法規ノ如キハ明カ

官憲ハ寧ロ之レヲ認メサルニ傾クモノノ如シ

印度支那ニ於ケル今後日本ノ發展ハ区々タル日本品ノ売込ミニ非スシテ投資事業ニ在リ然シテ其投資事業タルヤ悉ク土地ニ關ス然ルニ其根底タル土地所有權問題カ確定セラレス又外国人ノ經濟的地位ノ薄弱ナルコト前陳ノ如クナル以上如何ナル有利事業アリトスルモ投資ノ危険ヲ敢テスルモノナカルヘシ

即チ印度支那カ日仏条約ニ加入スル条件トシテハ關稅問題解決ノ外ニ日本人ノ經濟的地位ヲ確実ニシ且ツ土地所有權ニ關スル保証ヲ保留スルニ非スンハ効果ノ大半ヲ没却スルモノト思考致シ候

右回報申進候 敬具

追テ本信写在仏大使ヘ送付致シ置候

一七二 四月九日

在サイゴン古谷領事ヨリ
松井外務大臣宛

インドシナ總督ノ訪日ニ關スル新聞論評報告

ノ件

大正十三年四月九日

(四月三十日接受)

在西貢

領事 古谷 栄一（印）

外務大臣男爵 松井 慶四郎殿

印度支那総督ノ日本訪問ニ関スル新聞論評報告ノ件

印度支那総督「メルラン」氏ノ日本訪問計画ニ関シ当地発刊新聞紙ノ多クハ今日迄ノ処單ニ表面ニ顯ハレタル訪問ノ目的旅程及經濟調査委員ノ随伴等ニ関スル記事ヲ掲載スル

ノミナルカ *Le Courrier Saigonais* 及 *L'Information d'Extreme-Orient* ノ両紙ハ右記事ノ外別紙切抜第一号及

第一号ノ通何レモ総督ノ日本訪問ヲ以テ日本ト印度支那トノ經濟關係改善ニ多大ノ効果ヲ齎スヘシト為シ總督ノ日本

訪問ニ十二分賛成ノ意ヲ表シ居ルモ多年ノ懸案タル日本品ニ対スル最低關稅率ノ適用等ノ問題ニ就キテハ總テ沈黙ヲ

守リ河内発刊雑誌 *Moniteur* 所載（在海防森領事公信通送

第四一号付属御参照）ノ如ク赤裸々ニ之ニ論及スルモノ一

モ無之尚又專横ト偏頗ト打破スルヲ綱領トスト自称シ政府側其他當路者ノ行動計画等ニ対シ常ニ無遠慮ナル批評攻撃ヲ試ムル週刊 *La Voix Libre* ハ同紙カ最初總督ノ日本訪問ニ就キ *La Valse des Dollars Continue* ム題シ反対ノコト可然ト認メラルニ付可成至急前記往電記載ノ趣旨ニヨリ貴任國當局トノ折衝ヲ開始相成リタシ

一七四 四月十六日 在仏國石井大使（ヨリ
松井外務大臣宛（電報）
条約改訂問題ニ關シ石井・ポアンカレ会談ノ件
(四月十七日接受)

貴電第一四四号ニ関シ

「ボアンカレ」首相議會其ノ他ニテ会談ノ機會ヲ得サリシカ十六日面会シテ條約改正ヲ提議スル覺書ヲ手交シ必要ノ説明ヲナシタルニ早速商務省其ノ他ト協議ノ上談判委員ヲ選定スヘキヲ約セリ次テ本使ヨリ日本ト印度支那トノ貿易關係問題ニ付注意ヲ喚起シ此際同時ニ円満ナル解決ヲ見サル可カラサルヲ主張セルニ首相ハ本問題ニ付先以テ新任植民大臣ニ從來ノ成行ヲ説ク可ク殊ニ好都合ナルハ「サロウ」氏カ印度支那総督タル希望ヲ表シタルニ在リ同氏カ再総督ヲ希望スルハ日本ト同領地トノ關係ヲ改善シ更ニ東洋問題ヲ親シク研究センカ為ト当人自身ノ申分ナレハ本問題ノ解決ニモ大ニ努力スルコトナラント付言セリ

一七五 四月十八日 在香港高橋總領事（ヨリ
松井外務大臣宛（電報）
總督ノ先發タルコムミシヨン・エコノミク
ノ各委員ノ顔觸及ビ首脳者ノ任務ニ關スル件
(四月十八日接受)

松岡嘱託ヨリ
「メルラン」總督ノ先發トシテ「ボーエルカ」号ニテ五月六日朝神戸ニ到着直ニ上京スヘキ「コムミシヨン・エコノミク」ハ稅務長官「キルシヨ」氏ヲ委員長トシテ「ハノイ」、海防、西貢各商業會議所会頭、總督官房次長及新聞局長都合六名ナリ「キルシヨ」氏ハ一行中最モ重キヲ為スモノニシテ同人カ主トシテ我官憲トノ交渉ノ任ニ当リ商業會議所会頭ハ我民間要路者ト意見ノ交換ヲ為ス筈ナリ「キルシヨ」氏ハ此際是非共日本側ノ希望ニ対シテ充分ナル満足ヲ与ヘンコトヲ希望シ居ル旨拙者ニ懇切ニ語ルトコロアリタリ尚拙者ハ最近ノ便船ニテ長崎ニ直行シ本月二十五日頃東京帰着ノ筈

ノ意ヲ發表セルニ対シ *Le Courrier Saigonais* カ別紙第三号ノ通 *Indochine et Japon* ム題スル論說中ニ其全文ヲ挿入シ之ヲ論駁セルヨリ「メルラン」總督ノ如キハ今回始メテ極東ニ来リ未タ印度支那ノ事情ニ通曉セサル人ナレハ今次仏國ヲ代表シ日本訪問ノ使命ヲ果タスカ如キ資格ナキニアラスヤトテ別紙第四号ノ通論シ居レリ右及報告候 敬具

本信写送付先 在仏石井大使及在海防森領事
編註 別紙切抜省略

一七三 四月十一日 在仏國石井大使（ヨリ
松井外務大臣宛（電報）
通商條約改訂問題ニ關シ至急仏國政府ト折衝
方訓令ノ件

第一四四号

往電第九四号乃至第九六号ニ關シ

在英伊白各大使ニ於テハ條約改締ニ關シ既ニ夫々任國當局ト夫々交渉ヲ始メタル次第有之他方「メルラン」總督ノ來朝期モ追々切迫シ來リ當方ニ於ケル同總督トノ内交渉モ前記第九四号（五）記載ノ通貴方ニ於ケル交渉ト照應シ之ヲ取運

最低税率ヲ全部的ニ許与スルハ困難トノ仏國

外務省係官内話ノ件

(四月二十三日接受)

往電第一七〇号ニ関シ

外務省係官ハ寺島書記官ニ對シ日本ノ改正ハ全部的ナリヤト問ヘルニ付部分的ナリト答ヘタルカ仏國トシテハ一九一九年七月二十九日法律ノ趣旨ニ鑑ミ最低税率ノ利益ヲ全部のニ許与スルコトハ議会ニ於ケル關係上困難アリ但シ更新期間ヲ一個年度トナシ置カハ差支ナカルヘント云ヘリ現行條約第二〇条第二項ニモ照シ此点ハ要スルニ形式ノ問題ナルヘシ尚同係官ハ「メルラン」ニハ訓令伝達済ミナルカ印度支那ニ於テ日本品ニ最惠国待遇ヲ与フル代償トシテ仏本土ノ或種商品ニ対シ特遇ヲ得タキ希望アリ從テ当地ニ於ケル談判ハ總督本邦着ノ上始メタント云ヘル趣ナリ

一七七 四月二十四日 在仏國石井大使ヨリ

松井外務大臣宛(電報)

石井大使、仏国外務省セイズ主任官ト会談ノ件

(四月二十五日接受)

第一八七号

一七八 五月二日 在仏國石井大使ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

日仏条約改訂及ビメルラン渡日ニ關シデペー

シユ・ド・ツールーズ紙等論評ノ件

第二〇五号 (五月三日接受)

日仏通商条約改訂並「メルラン」渡日ノ件ハ昨今当地一般ノ注意ヲ惹キ居ル処「サロウ」ノ機関紙「デペーシュ・ド・ツールーズ」ハ四月三十日日仏關係ト題スル「テッサン」ノ社説ヲ掲ケ冒頭先づ日本朝野ノ同情力仏國ニ傾注サレ居ル今日「メルラン」ノ往訪ハ時宜ニ適セリト述ヘ両國親善ノ歴史及理由ヲ詳論セル後思想モ性質モ將利害關係モ共通ナル日仏両國ノ間ニハ何等衝突ノ原因ナシトノ閣下ノ言ヲ引用シ此際我全般的活動ヲ阻害シ一部獨占的企業者ノミヲ便スルカ如キ最高税率ヲ日本ニ課シ置クハ不都合ナリ

極東方面新販路開発ノ見地ヨリ印度支那自ラ両國經濟關係ノ結目トナル様寛大互讓ノ精神ヲ以テ斯ヘク仏國產業家亦説セリ

尚「バレー」ハ其前日右ト同趣旨ノ論説ヲ「ビュルタン」・

往電第一七〇号ニ関シ
二十四日本使ハ外務省主任官「セイズ」氏ニ面会シ印度支那ニ付テハ地方的事情アリテ談判長引クヤモ知レス就テハ先ツ以テ比較的容易ナルヘキ日仏間ノ談判ヲ初メタント申込ミタルニ「セ」氏ハ已ニ「メルラン」總督ニ訓令ヲ出シタル後ニテ總督ハ不日日本着ノ上提議スル筈ニ付正式交渉ハ夫レ迄待チタシ其間吾人ハ本問題調査ニ努ムレハ時日ヲ徒費スルコトナント謂ヘリ次イテ本使ハ「メルラン」總督ヨリ提出セラルヘキ案ハ如何ナルモノナリヤ今ヨリ之ヲ我國ニ知ラセ置カハ總督ニ對シ直ニ回答スルノ用意ヲ得シ得ヘント謂ヘルニ對シ兎ニ角我政府ハ今回ノ談判ヲ同盟國間ノ交渉ト看做シ穩當ナル案而已ヲ提出シ成ルヘク貴國政府ニ満足ヲ与フル意向ナリト答ヘ本使ノ問ニ答フルヲ避ケタリ終リニ本使ハ日本、印度支那貿易問題ノ困難ハ植民地側ニアレハ植民地ニ苦情ナキニ至ラハ仏本国ハ直ニ日本ノ希望ニ応諾スヘシトハ本使カ歷代外相ヨリ親シク聞カサレタル処ナレハ今ニ至リ万一二モ仏本国ニ於テ植民地ニ於ケル讓歩ヲ引用シテ本国ニ對スル利益ヲ望マルコトアラハ迷惑ノ次第ナリト予防線ヲ張リ置キタリ

一七九 五月六日 在仏國石井大使ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

メルラン總督ノ訪日ニ關シ仏紙論評ノ件

第二〇八号 (五月七日接受)

貴電合第一四一号ニ関シ
当方ニテハ往電第二〇五号ノ通り取計ヒ済ミナルカ諸新聞ハ更ニ当國政府筋ヨリ出テタリト認メラル同趣旨ノ記事ヲ掲ケ居リ本月四日「エコー・ド・パリー」ノ社説トシテ

「ホンロー」ハ仏國カ日本ヲシテ露独提携ノ背後ヲ衝カシムル為メ軍事同盟ヲ計画ストハ驚クヘキ誣罔ナリト謂ヒ「メルラン」ノ使命ノ真相（貴電ト同趣旨）ヲ詳説セル後吾人ハ極東ノ領土ヲ守ルニ十分ノ兵力ナキモ之カ為ニ本国ノ負担ヲ増加シ得ス不時ノ事変ニ際シテハ特ニ慎重ノ用意ヲ要ス印度支那ノ外交権独立ハ仏國民全体ノ為ニ危険ナシトセスト論シ總督ノ使命ハ研究ニ在リ決定ハ本国政府ノ手ニ在ル旨ヲ諷セリ、五日ノ「デペッシュ・ド・ツールーズ」ハ再ヒ日仏親善ト題シ日本ノ印度支那移民説ノ虚構ナルヲ説キ前電「バレー」ノ論文ヲ引用シ總督ノ渡日ハ仏国對外發展ノ第一歩ニシテ外交的陰謀ヲ含マスト論セリ

一八〇 五月六日

在獨國本多大使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

インドシナ総督ノ訪日ニ関連シ日仏同盟説流

布サレオル旨報告ノ件

（五月七日接受）

仏領印度總督ノ本邦訪問ニ関連シ最近一、二英國新聞カ之ニ政治的意味ヲ付セル報道ヲ為セル為例ノ日仏同盟又候當

国言論界ニ持上リツツアリ

一八一 五月十一日 在歐洲各大使へ暗送セリ

メルラン総督松井外務大臣会談要領

五月十一日午前十一時ヨリ十一時半迄

外務大臣官邸ニ於テ

出席者

現ニ兩日前當國某大官ト会談ノ際ニモ先方ニ於テ本問題ニ關シ探リヲ入レントシタルニ付本使ハ確力歴代ノ印度支那總督ハ新任後第一ノ機会ニ於テ本邦ヲ訪問スル例アル様記憶スルニ付今次ノコトモ右ノ儀礼ヲ踏ムモノナルヘク其際或ハ日本仏領印度間ノ通商條約殊ニ關稅問題ハ多年日仏間ノ懸案タルコト故右ニ付意見ノ交換等ノコトアルヤモ計ラレサルモ一部ニ揣摩セラル如ク何等政治的意味合ナキヲ確信スル旨一個ノ私見トシテ申含メタル處甚タ馬鹿々シキ儀乍ラ日仏關係ニ付テハ當国外交當局ニ於テ深ク猜疑ヲ有シ居ルニ付其内彼等ト面接ノ機會ニ於テ尚先方ヨリ何等話頭ニ上スコトナキヲ保セス其場合ノ応待振ノ心得方ニ関シ為念御電示置キヲ請フ

仏國側 「メルラン」總督
「クローデル」大使
日本側 松井外務大臣
佐分利參事官（松平外務次官病氣ノ為代理トシテ出席）
「メルラン」總督ハ先ツ「一般普通ノ場合ニハ他ヨリ來レルモノカ何等カ要求ヲ提出スル筈ナルカ今回ハ全ク例外トシテ自分等ヨリ何物ヲカ提供シ度キ旨ヲ貴方ニ申出ツル次第ナリ」ト前置シタル後尤モ印度支那トシテハ綿製品ノ関稅輕減ノ如キハ非常ニ困難トスル所ナルヲ以テ今回ノ関稅問題ニ關スル商議ニ於テハ初メヨリ此点ニ余リニ執着セサル様致度然ラサレハ會談ハ遂ニ不成功ニ終ルヘキヲ虞ル」ト述ヘ且曰ク「印度支那ト日本トノ貿易品ノ關係上印度支那ヨリ日本ニ要求スヘキモノ少ナキモ若シ日本側カ仏本国ニ対シ恩恵ヲ与ヘラルニ於テハ印度支那ニ於ケル日本品ニ対スル關稅輕減反対ヲ緩和スルコトヲ得ヘシ」トノ趣旨ヲ述ヘ次テ話頭ヲ仏國產製鐵購買問題ニ転シテ曰ク

「日本カ米國ヨリ物品ヲ購入スル一面ノ理由ハ言語ノ關係ニモ存スヘシ御承知ノ通日本人中英語ヲ解スルモノ比較的多數ナルト同時ニ英米式教育ヲ受ケタルモノ多ク隨テ機械ヲ購入スルトシテモ英米式ノ「タイプ」ノモノヲ希望スルニ至ル就テハ此等ノ点ヲモ良ク考慮シ之レカ匡正ニ向ツテ努力セサルヘカラズ」

右ニ対シ「メルラン」總督及「クローデル」大使ハ交々一國輿論ノ常ニ變化スルコト、當局カ適宜之ヲ指導セハ自然現在ノ事態ヲ改變シ得ヘキコトヲ述ヘ松井大臣ハ日仏両國元来國家生存上ノ必需品ヲ特定ノ一國ヨリ購入セラルル

各種ノ施設例へハ仏蘭西會館設立、*Cité Universitaire*(曰里「モンスリー」ニ於ケル)ニ日本部設立、両国名士交換等ニ言及シ啓發事業ノ効果少ナカラサル所以ヲ述ヘ続イテ「從来印度支那日本間ノ經濟關係確立ニ付テハ多少ノ話合アリ現ニ巴里講和會議ノ際モ印度支那選出下院議員「ウートレ」氏ト福井菊三郎氏トノ間ニ会談ヲ試ミタルコトアルモ常ニ交渉不結果ニ終リタルヲ遺憾トス」トテ先方ノ注意ヲ喚起シタリ

右ニ対シ「クローデル」大使ハ両國經濟關係ノ發展ニ付テハ政府側ニ於ケル努力ノ必要アル所以ヲ力説シタリ

次テ話題ハ東支鐵道問題ニ移リタリ「クローデル」大使ハ「仏國カ東支鐵道ニ付シ巨額ノ投資ヲ為シタルハ御承知ノ通ニテ此利益ヲ露國ノ為メ奪取セラルハ到底忍ヒ難キ所ナリ曩ニ在支仏國公使カ本件ニ付キ支那政府ニ抗議スル所アリ」トテ「右ニ付キ日本モ一致ノ態度ニ出テラレンコトヲ(nous associer)希望スル」旨ヲ述べ更ニ語ヲ繼イテ「猶ホ此際特ニ明カニシ置キ度キ一事アリ即チ仏國ハ満州ニ於テ經濟的利益關係ヲコソ有スレ何等政治的利害關係ヲ欲求スルモノニ非ス東支鐵道ニ付テモ亦素ヨリ同様

ナリ然ルニ同鐵道ニ關スル華府會議ノ決議ハ極メテ不得要領ニシテ充分ニ仏國ノ投資利益ヲ確保スルモノト認メ難シ就テハ本問題ニ付キ日本ヨリ相當ノ支持ヲ得ハ幸甚ナリ尤モ右ハ特ニ書面ノ了解(*entente écrite*)ヲ求ムル次第ニ非ス単ニ詰合(parole)ノミニテ足レリ惟フニ露國カ再ヒ滿州ニ南下シ之ヲ其ノ勢力圏ト為スノ日本ニ取リ極メテ好マシカラサルハ勿論ニシテ仏國トシテモ同様ナリ加之仏國ハ日本カ滿州ニ於テ優勢ヲ維持スルコトハ安定ノ保障(securité)ムシテ最モ歓迎スル所ナリ」ト述ヘ

松井大臣ハ

「東支鐵道ハ滿州カ商業上ノミナラス政治上ニモ日本ト重要ナル關係ニ在ルヲ以テ常ニ深甚ノ注意ヲ払ヒテ其成行ヲ見居ル次第ナルカ若シ露支間ニ何等カノ協定成立スルコトトモナラハ之ニ対シ必要ノ保留ヲ為ス積リナリ」トノ答ヲナシ三人ノ間ニ日仏両國間ノ友好的了解ノ設定ヲ妨クヘキ何等ノ事由存スルコトナキ旨ノ意見ヲ交換シタリ

一八二 五月二十日 外務省公表

インドシナ関税問題ニ關スル日仏両国代表者 ノ非公式会談ニ關スル件

公表第八号

日仏間ノ親善關係ヲ密接ナラシメムカ為ニハ通商經濟關係ヲ増進セシムルニ在ルハ勿論ナル次第ナルヲ以テ今次印度支那總督來朝ヲ機会トシテ日本政府ハ印度支那總督トノ間ニ明治四十年以来懸案トナレル仏領印度支那ノ日仏通商條約加入ヲ如何ニセハ容易ナラシメ得ヘキヤニ付キ非公式ニ

論議セムコトヲ欲シタルカ印度支那總督ニ於テモ之ヲ快諾シ松平外務次官、佐分利大使館參事官及川島平和事務局部长ノ日本側委員ハ印度支那側委員キルシェー稅務長官及ロ

アイエー商務官ト之力為外務省ニ於テ數次会見ヲ累ネ隔意ナキ意見ヲ交換シ又和衷同ノ精神ヲ以テ仏領印度支那ト

日本トノ通商經濟關係ヲ増進スル各種ノ方法殊ニ印度支那

カ從來條約加入ヲ困難トスル原因トナリタル關稅問題ニ付キ詳細ニ論議スル所アリ其ノ結果日本重要品カ仏領印度支那

那ニ於テ受クヘキ關稅上ノ待遇並印度支那特產品カ日本ニ

一八三 五月二十二日 松井外務大臣ヨリ 在外公使及ビ在シンガポール總領事宛(電報)

メルラン總督ノ訪日ニ際シ日本・インドシナ

双方ノ係官ノ間デ商議サレタ双方ノ生産物ニ

別電 五月二十二日 発電報合第一五七号

外務省右公表文

今次來朝ノ「メルラン」總督ハ去二十一日退京シ滿鮮視察

右へ金リニカタニリ也如ク機ムハ別電ハ通リ公表ハタク
(宣電)

五月廿一日發電報合第十五七號
ヘルトハ總督訪問ニ際シ日本・マニラシナ双方ノ係伊ハ題ハ
商議サシタ双方ハ生産物ハ貿ヘル關稅待遇問題等ニ關ヘル公
表文

合第十五七號別電

Official Communiqué of The Foreign Office,

May 20, 1924.

As it goes without saying that the closer intimacy of Japan and France lies in the promotion of the commercial and economic relations existing between the two countries, the Japanese Government have been animated by a desire to discuss informally, on the occasion of the present visit of M. Merlin, Governor-General of French Indo-China, the means to facilitate the inclusion of that French possession within the scope of the Franco-Japanese Commercial Treaty, which question has been pending between the Government and the Government-General of Indo-China since 1907. The

products of Japan in Indo-China and that accorded the staple products of Indo-China in Japan. The present negotiations have been held in an unofficial manner and under such conditions as will not bind the respective Governments in the least, but it is thought that a satisfactory and concrete agreement may probably be reached on the basis thereof in the near future.

What has been discussed during the visit of the Governor-General of Indo-China chiefly concerns the aforementioned question of extending the scope of the existing commercial treaty between Japan and France and no important question relative to international politics generally or emigration has come under consideration.

往電合第十五六號リ閱ハ

日仏非公式會議ニ於テ我方ヨリ印度支那ハ無条件リ曰仏條約ハ加入スルコト若又印度支那特殊ノ事情ニヨリ無条件加入ア困難トスル場合ハ特別ノ例外ヲ設ケドリ加入スルコト原則ニシテ本邦品ニ対シ最低税率ヲ適用シ先方ニ於テ内國工業保護ハ必要上同意シ難キ事情アル若干品目リ特シテハ除外ハ設ケルモ差支ナシタキ意向ナリト主張シタルニ対シ先方ニ於テハ仏國關稅協定ノ根本主義殊リ米國加奈陀及「サム」等ニ与くタル協定ノ方式ヲ引用シ我利害關係深キ若干唔田リ対シテ而己最低税率又ハ中間税率ヲ適用シ得ルヤ否ヤリ閱ハ詮議ヲ行シタキ準備ト意向ノハ有スルモ過キキルモ主張シ右リ対シ我ニ於テハ先方カ戰後ニ雖モ英、西、伊等ニ無制限ニ全部ノ商品ニ最低率ヲ与ク居ルヲ指摘ハリシ庇セス結局右双方主義ノ問題ハ曰

仏條約交渉ノ際ニ譲ルコトニシ當方ヨリ曩ニ大正十一年在海防中村領事ヨリ貴官ハ転電シタル同領事來電第一一號記載ノ七八八品ニ數品ヲ加クタルモノヲ提出シ之ヲ基礎トシ各品由每ニ先方ニ於テ最低税率ヲ適用シ得ルヤ否ヤラ審議シタルカ該局左記ハ通り大体ノ方針リ付キ双方ハ諒解ヲ達

一八四 五月廿一日 松井外務大臣ヨリ
在仏國石井大使宛(電報)
マニラハ十關稅問題ニ關ハシ・公使館係

第一九七號

五 日仏通商航海条約改定交渉 一八四

ケタリ

一、印度支那及仏本国ノ工業ニ影響ヲ与ヘサル本邦品ニ対シ最低税率ヲ適用スルコト
 二、前記一、ニヨリ最低税率ヲ受クルコトヲ得サル本邦品ニシテ英米等ニ最低税率ヲ与ヘ居レル物品（例令綿糸綿布硝子類）ニ対シテハ出来得ル限り英米品同様最低税率ヲ付与スヘキモ右困難ナル場合ニハ日本品ト英米品トノ間ニ於ケル運賃ノ相違ヲ顧慮シ該英米品ニ適用セラルヘキ最低税率ニ約二割程度ヲ加ヘタル中間税率ヲ適用スルコト

三、支那品ニ対シ適用シ居レル特別ノ低率ハ同種日本品ニモ適用スルノ措置ヲトルコト

四、右ニ関スル正式協定成立ニ至ルマテ本邦品ニ対シテハ一九二一年三月二十八日ノ法律ニヨリ独逸品等ニ適用スルタメ引上ケラレタル新最高税率ヲ適用セサルコト

尚先方委員ニ於テハ日仏条約加入ニ関シテハ異存ナシト言明セリ

五、先方ノ希望ニ基キ胡椒、珈琲、蘭蓆、椰皮蓆、生漆、食用酢、錫、生生牛豚、牛肉、豚肉、sauce de poisson

竹ニ關シ我国定税率ニ対スル相當割引歩合ノ協定ニ応シ差候也

ニ関スル件

シナ側委員トノ会談記録

今次「メルラン」総督ノ來朝ヲ期トシ仏領印度支那ニ於ケル本邦貨物ニ対スル関稅上ノ待遇改善問題ニ關シ先方委員タル稅務長官「キルシェ」ト本邦側委員トノ間ニ非公式ノ会商ヲ重ネタル結果ノ要領ハ往電第一九六号ヲ以テ申進置候処右交渉ノ準備トシテ作成シタル書類並同會議議事錄左記ノ通り及御送付候条委細右ニヨリ御承知相成度此段申進候也

記

(一)仏領印度支那関係資料 中村領事調査第一乃至第八(付)
 河内商業會議所会頭意見書)

(二)印度支那側委員トノ會議議事錄

(三)印度支那側要求ヲ容レタル場合本邦側ニ於テ先方へ提供シ差支ナキ閑稅割引表

追テ仏領印度支那ト日本トノ貿易關係及同仏訳文追送可致候

編註 付屬書トシテ(二)印度支那側委員トノ會議議事錄ノミヲ採

(付属書)

録シタ

インドシナニ於ケル本邦貨物ニ対スル閑稅問題ニ關シインド代表者カ本談話ニヨリ得タル結果ヲ稽査スヘキモノトス

支ナキ旨開陳シ置ケリ

尚以上ノ諒解ハ追テ先方委員ニ於テ帰印ノ上同委員ト仏本国トノ協議ヲ了シタル上右ノ方針ニヨリ各品目ニ対スル具体的ノ決定ハ更ニ来ル九月頃先方委員渡来ノ上之ヲ審議シタキ旨同委員ニ於テ申述ヘタリ

右為御参考不取敢電報ス尚双方協議ノ上作成ノ議事錄等至急郵送ス

一八五

五月二十六日

松井外務大臣ヨリ
在仏國石井大使宛

インドシナニ於ケル本邦貨物ニ対スル関稅問

題ニ關シンドシナ側委員トノ会談記録送付

ノ件

通総機密第一〇号

大正十三年五月二十六日

松井外務大臣

在仏國

石井大使

仏領印度支那ニ於ケル本邦貨物待遇方

○日本ノ希望

日本ノ代表者ハ其政府ノ最モ切実ナル希望ハ印度支那ハ制限無ク千九百十一年日仏間ニ締結セラレタル通商航海条約及ヒ現ニ巴里ニ於テ両国間ニ交渉中ノ同条約ニ加入センコトニシテ即チ同条約ニ依リ一方ニ於テ印度支那ニ於ケル日本ノ企業ニ対シ平等ノ待遇ヲ享ケ他方ニ於テ輸入貨物ニ対シ最低税率ノ利益ヲ享ケンコトニアルヲ陳述セリ

上記第一ノ点ハ本使節ノ日本ニ渡来セル目的ノ一ナルモ日本ノ生産品ニ対シ印度支那ニ於テ単純ニ最低税率ヲ適用センコトノ要求ニ関シテハ仏本国及ヒ印度支那ニ於テ日本及印度支那間ノ協約締結ニ対シ多年間障礙トナリタルト同様ノ故障ヲ起スナラント陳ヘラレタルニ対シ日本代表ハ該國カ特ニ印度支那ニ於テ優遇即チ最低税率又ハ一般税率ト最低税率トノ中間税率適用ヲ希望スル自國生産品ヲ独立ニ研究スルコトヲ承諾セリ

日本ハ又其輸入品ニ対シ印度支那最低税率ノ全部的適用ノ主義ヲ仏国政府ニ於テ承認セラレンコト從テ中間税率ヲ認ムヘキ品目ハ上記原則ノ例外ヲ為スモノトシテ見做

テハ妥協的精神及ヒ好意的了解ヲ以テ考査スヘシ

○印度支那税率ノ考査

次ニ進シテ印度支那税率ニ関スル細目ノ調査ニ入り日本ノ代表者ハ其政府ノ希望案ヲ一々説明セリ

○印度支那及ヒ仏本国ノ為ニスル譲与

印度支那ノ代表者ハ日本ノ要求ニ係ル利益ノ重要ナルコト並ニ印度支那側ヨリ之カ代償トシテ何等要求スヘキ物品ナキコトヲ指示セリ日本ハ印度支那ノ限ラレタル或種ノ產品ニ対シ税率上ノ利益ヲ印度支那ニ与フルコト能ハサルヤラ考査センコトノ希望ヲ表示シ而シテ日本代表者ハ之ニ対シ此要求ヲ最モ好意的精神ヲ以テ考究センコトヲ確言セリ

印度支那代表ハ終リニ印度支那ニ於テ日本ニ許与セラルヘキ利益ト関連シ仏本国ノ通商ノ為ニ享得スヘキ仏国ノ権利ヲ留保セリ

一八六 七月十日 在ハイフォン森領事ヨリ
幣原外務大臣宛

メルラン總督ノ日本訪問後ノ感想並ビニハノ
イ、サイゴン両商業會議所会頭談話ニ関スル

スヘキコトヲ要求セリ

尚日本政府ハ其通商協定ヲ為シタル列国ニ対シ其最低税率ノ全部適用ヲ要求スルコトヲ慣例トシ而シテ印度支那ニ対シテ此慣例ニ反スル取極ヲ為ストキハ他ノ列国ニ対シ惡例ヲ貽スコトナルヘキニ付上記除外例ハ出来ル丈ヶ少數ニ止メンコトノ希望ヲ表示セリ

尚日本ノ代表者ハ同国政府カ印度支那ニ一九一一年ノ条約ヲ適用スルニ付キ懷抱スル所ノ目的ハ日本ノ通商ニ関シテハ特惠的待遇ヲ要求スルニ非スシテ他ノ列国ト平等待遇ヲ要求スルモノナルヲ主張セリ

印度支那ノ代表者ハ本使節ノ目的ハ日本原産品ニ一般税率ト異ル制度ヲ印度支那ニ於テ適用スルコトナル場合ニ於テ生スヘキ經濟的影響ニ関シ同国政府ニ対シ報告ヲ為サンカ為メ關稅問題ニ関スル日本ノ希望ヲ細目ニ亘リ且ツ最モ厳密ニ検討セントスルニ在リ

印度支那ハ今ヤ日本ニ対シ地方の産業ノ保護並ニ本植民地ニ於テ捌ケロヲ有シ而シテ他ニ之ヲ求ムヘカラサル本國産業ノ保護ト兩立スル限り一切ノ利益ヲ供与スルニ客ナラサルモノト保障ヲ付与シ得ヘク又日本ノ希望ニ対シ

新聞記事報告ノ件

通送第八五号

大正十三年七月十日

在海防

領事 森 新 一 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

新聞紙上ニ發表サレタル「メルラン」總督日本往訪後ノ感想並河内西貢両商業會議所会頭談話トシテ報セラレタル新聞記事通報ノ件

「メルラン」總督河内ニ帰還後六月二十六日同地三仏字新聞社長ヲ總督府ニ招集シテ為シタル日本訪問ニ関スル談話ナルモノ當地方各仏字新聞紙上ニ掲載サレ其内容ハ大体同ナルモ日刊『France-Indochine』社長 C. Mazet 氏ノ報

スル所ハ比較的細ニ亘リ居ルニ付其概要左ニ訳出供貴覽候
總督ハ六月二十六日木曜日午前十一時広東事變ニ際シ
總督カ厄難ヲ免レタルコトヲ祝賀スル為メ出頭シタル

我カ市ノ三仏字新聞社長ヲ引見シタリ總督ハ我等ヲ待ツコト極メテ懇懃ニシテ劈頭第一今回ノ日本及支那ヲ巡回シタル長途ノ旅行カ總督ニ好キ印象ヲ与ヘタルコ

トヲ告ケタリ經督ノ面白キ用語ニ從ヘバ印度支那ハ
人前ノ娘ニ成り今ヤ初メテ極東ノ交際社界ニ顯出シヲ
シタルナリ印度支那ハ洵ニ其總督タル個人ヲ通シテ祝
賀サレ愛好サレタルモノニシテ印度支那カ日本ニ於テ
受ケタル待遇ハ懇篤ヲ超越シ各人力其ノ好意ト親切ヲ
競フ処其規模寧ロ壯大ノ域ニ達シタルヲ思ハシメタリ
日本滯在中總督ハ同帝国ノ政界財界及商業界ノ主要人
士ト會見スル機會ヲ得タルカ之ニ依リ總督ノ看取シタ
ル處ハ今回印度支那カ日本ニ於テ多大ノ同情ヲ喚起シ
タルト同時ニ日本カ予々抱持スル吾人ト親交關係ヲ結
ハント欲スル念慮ヲ此際更ニ一層喚起セシメタルコト
ニ在リ總督曰ク若シ吾人カ印度支那ヲシテ太平洋岸ニ
重要ナル地位ヲ占ムルコト恰モ英領印度ノ中央亞細亞
ニ於ケル如キモノタラシメント欲セハ吾人ハ排外的孤
立生活ヲ營ムヘキニ非ス宜シク近隣諸邦トノ結束ヲ保
テ曰ク此協調タル当ニ吾人ノ攻究ニ值スルモノニシテ
タサルヘカラズ殊ニ日本ノ如キ真情ヲ以テ自ラ進ムテ
協調ヲ吾人ニ望ムモノアルニ非スヤ總督ハ尙ホ敷衍シ
印度支那ハ其協調ニ依リ有スル利益ヲ享クヘク延テ仏

サハ其家族全体ヲ富マシムルニ非スヤ吾人力印度支那ノ繁栄ノ為ニ働クコトハ即チ仏蘭西ノ繁栄ノ為ニ働クニ外ナラス母国ヲ去ルコト甚タ遠ク繁栄ナル幾多ノ大商港ヲ有スル極東ノ商業中心地殊ニ日本ニ近キ印度支那カ毫モ母国ノ感情ヲ損フコトナク習慣ト趣味ニ於テ或種ノ共通点ヲ有スル日本ニ販路ヲ開カントシ又ハ日本ヨリ供給ヲ仰カントスルハ極メテ自然ノ理ナリ此ノ販路ヲ開カンカ為メニ又有利ナル貿易事業ヲ誘導センカ為ニ「メルラン」總督ハ日本ニ承諾シ得ヘキ讓歩ト供与シ得ヘキ利益トヲ考究スルノ端緒ヲ作りタリ尤モ之レハ日本モ又同様ノ讓歩ト利益トヲ以テ吾人ニ酬ニヘキコトヲ保証スル交換的条件ノ下ニ成サルヘキ

但シ「メルラン」氏ハ此讓歩此利益ヲ供与スル権能ヲ有セス「メルラン」氏ハ只其様式ヲ講究シ自己ノ意見ヲ献策シ得ルニ止マル其後ノコトハ巴里ニ於テ両国ノ任命スル代表者カ之ヲ査覈決定スヘキモノナリ

「メルラン」総督ノ意見トシテハ母國ノ嚴密ナル且余
リニ拘束のナル後見ヨリ開放サレタル印度支那、殊ニ
選挙ニ依リテ成立スル各會議團（総督諮詢會議各地商
業會議所団体等ヲ指ス）ノ權威ニ則リ政務ヲ処決スヘ
キ總督ヲ戴ク印度支那カ其使命トシテ第一ニ果スヘキ
コトハ太平洋沿岸ニ政治的任務ヲ負フヘキコトニ在リ
即チ印度支那ハ両國民（日本及仏本国）ヲ結束スル連
鎖ヲ握リ又連鎖其物タリ得ヘキコトハ地理上ノ位置力
吾人ニ其可能性ヲ与フルモノニシテ此両國民ハ相信頗
スルコトニ依リテ相互ニ利スル所アルヘキナリ云々
（別紙切抜甲号参照）

報シ日本人ニ敬意ヲ表シタル尚又政府官憲商工界及一般人士カ一行ノ使命遂行ニ対シ競争的ニ有ユル便宜ヲ供与シタル旨ヲ述ヘタリ又曰ク今回最モ重要ナリシ問題ハ印度支那ト日本ノ通商関係改善ニ関スルコトニシテ此改善ニ必要ナル凡テノ要項ハ逐一討究サレタリ即チ關稅政策ノ改変或ル種ノ日本商品ニ対シテ最惠國条款適用ノ儀印度支那日本間直通航路開設必要ノ儀商工制度改善ノ儀及商標及特許保護ノ儀、日本人ト外国人人間ノ争議ニ対シ一層公平ナル法規ヲ適用スル儀等ニシテ其外日本ノ輸出商人ヲシテ其提供シタル日本品ト嚴格ニ同一商品ヲ輸出セシムル様シタキコト然ラスンハ取引ハ全然不可能ナルコト等ヲ日本ノ商工業者ニ開陳シタリ尚ホ同会頭ハ日本ノ各商港ヲ視察シタル結果其設備ノ或物ハ之ヲ西貢港ニ適用シ得ヘキコトヲ知リタリ云々（別添切抜乙号参照）

尚ホ西貢商業會議所会頭 de Je Ponmeyre 氏カ六月十八日同會議所會議ノ席上ニ於テ為シタル報告トシテ同シク同紙上ニ転載サレタル記事ノ概要左ノ如シ

概要左ノ如シ

「グラヴィツ」氏が齋シ帰リタル日本旅行ノ印象ハ絶好ニシテ同会頭曰ク委員一行カ日本官吏及商工界ノ人士ヨリ享ケタル待遇ハ最モ懇切ヲ極メタルモノニシタリ既ニ第一回ノ公式晩餐会ノ卓上演説ニ依リ我等委員ハ日本人ノ欲スル所ノ奈辺ニ在ルカラ知り得タリ日本人ハ実ニ仏蘭西殊ニ印度支那カ彼等ト余リニ取引ヲ為サナルコトヲ非難シタリ日本ノ我ニ買フ所多ク我ノ日本ニ買フ所皆無ナレハ相互的関係ハ存在セスト云フニ在リ

此最初ノ演説ハ印度支那ノ商業代表者タル我等ノ注意ヲ喚起シ我等ハ速ニ事情ヲ究メ日本ノ希望ニ対スル我等ノ意見ヲ決センカ為メ必要ナル調査参考資料ノ供給ヲ要求シタリ

日本人ハ大シタコトヲ要求シタルニ非ス彼等只印度支那ニ輸入スル日本品ニ最低税率ノ適用ヲ望ムニ過キサリキ然レトモ一切ノ日本品ニ一律ニ最低税率ヲ適用スルコトノ不可能ナルハ云フヲ俟タサル所ナレハ日本ハ

決シテ此希望ヲ達スルコト能ハサルヘシ
然ニ外交上ノ見地ヨリ吾人カ日本ト接近スルコトノ利益大ナルニ依リ日本ト友好關係ヲ密ニスル既ニハ日本ニ唯タ左ノ如キコトヲ約束シ得ヘシ

曰ク「印度支那ニ於ケル外国輸入品ハ可成リ沢山アリ然シ尚日本カ輸入スル余地ナキニ非ス依テ我等ハ日本ニ好意ヲ表スル為メ外国カ我等ニ供給スル或種ノ物品ニシテ日本カ有利ニ之レト競争スルコトヲ得其外国輸入商ノ地位ヲ贏チ得ル様特恵税率ヲ与フルコトヲ講究シ見ント」

或ル人々ハ我等カ日本產品ニ対シ印度支那ノ門戸ヲ大大的ニ開放セントスルモノナルコトヲ信シタリ之ハ事実ニ反スルモ仮リニ斯クアリタリトテ之ヲ恐ルヘキ理由アリヤ、曰ク断シテ無シ

大戦争中ニ膨脹シタル日本ハ震災以来産業萎靡シテ振ハス一方労働者ノ要求ハ依然前日ト異ルコトナシ此ニ於テカ重大ナル恐慌襲来シ給料ノ高騰ハ生活費ノ騰貴トナリ現時ノ情況ニ於テハ日本ハ労働賃銀ノ最モ高価ナル国トナレリ依テ日本商人力印度支那ノ地方製產物

ト競争セントスルニハ多大ノ犠牲ヲ払ハサルヘカラス

之レ彼等ノ欲セサル処ニシテ彼等ノ逼迫セル財政ハ斯ノ如キ仁恵ヲ為スコトヲ許ササルナリ

事情斯ノ如シ吾人ハ日本ニ最低税率ヲ許ストモ虞ルヘキ理由ナシ况シヤ或ル種ノ物品ニ特遇税率ヲ課スルニ於テオヤ

吾人カ印度支那ニ外国品ヲ輸入スル以上吾人ノ為シ得ヘキコトハ日本ヲシテ其外國生産者ノ位置ヲ得セシムヘキコトナリ如何トナレハ之レニ依リ印度支那ノ工業モ商業モ毫モ苦痛ヲ感セサレハナリ云々

尙ホ「グラヴィツ」氏ハ近々各地商業會議所ニ通告セラレサルヘカラサル稅關長ノ報告ニ対シ終審的討議ヲナスモノハ商業會議所ナルコトハ快心ノコトナリト述ヘタリ

同氏又曰ク吾人カ日本ノ凡テノ提言ヲ断定的ニ拒絶スルハ策ノ得タルモノニ非スノ如キハ印度支那及仏本国ニ禍ヲナスモノナリ日仏通商條約締結ノ吾人ニ利アルコトハ何人モ否定シ難カラン故ニ我等ノ断定的拒絶アルニ係ラス日仏間ノ通商條約ハ締結セラルヘク然シ

テ其條約ハ印度支那ノ事情ニ就キ何等ノ考証書類ナク何等精密ナル情報ヲ有セサル仏本国カ締結スルニ非スヤ斯ノ如キ狀況ノ下ニ締結セラルル條約ハ我殖民地ノ利益ニ背馳セスヤ

抑モ此殖民地ノ利益問題ナルモノニ就テハ何人モ無智ニシテ然モ最重要ナル當局者間ニサヘ能クハ知ラレ居ラサルナリ故ニ殖民地ニ關スル報告ハ宜シク其國ニ在住スル当路者ニ成サンムル必要アリ之レヲ根拠トシテ締結サレタル條約コソ協定シ得ル可能事項ヲ精確ニ規定シ得テ遺憾ナキヲ得ヘケン

一行中我々商業會議所会頭ハ今回日本商業界ノ諸代表者ト接觸ヲ保チ得タルコトヲ喜ヒ且右代表者カ我等ノ所望シタル凡テノ必要研究材料ヲ提供シ吳レタルコトヲ大ニ多トシ居レリ殊ニ委員一行ハ宴席上ニ於ケル漠然タル挨拶ノ交換ニ重キヲ置カス望ム所ハ精細明確ナル研究材料ノ入手ニ在リシ所先方ハ大ナル好意ヲ以テ悉ク之レヲ我等ニ与ヘタリ

「グラヴィツ」氏尙ホ吾人ニ告ゲテ曰ク印度支那市場カ日本ノ粗悪品ヲ以テ荒サレンコトヲ常ニ想像シ居

ル人々アルモ夫ハ向後絶対不可能ノコトニ属シ最早此ノ如キ恐レヲ抱ク必要ナキコトヲ此等ノ人々ニ保証サレタシ

吾人ハ日本トノ政治的同盟ヲ必要トス之レヲ保持スル為我等ハ日本ニ一外国生産者ノ地位ヲ与ヘント欲スルモノナリ日本カ之レヲ押退ケ自ラ取テ代リ得ルヤ否ヤハニ日本自身ノ努力ニ拘ルモ是カ為メ印度支那若クハ仏本国ノ商業ハ何等ノ影響ヲモ蒙ラサルナリ云々（別添切抜丙号参照）

「グラヴィツ」氏ノ談話トシテ新聞紙上ニ掲ケラレタル記事ノ大要ハ右ノ通りナル処同氏ハ七月一日付書面ヲ本官ニ送リ越シ同氏ノ談話トシテ“France-Indochine”ノ報シタル記事ニ對シテハ直ニ同新聞社長ニ抗議ヲ申込ミタルモ同新聞社ハ今ニ同氏ノ抗議文掲載ヲ肯セス依テ總督初メ同僚商業會議所会頭連中ニモ此事ヲ通報シ置キタルカ右記事ハ

八

第一、同氏ノ意向ヲ支離滅裂ナラシメ同氏ノ語リタル真意ヲ甚タシク枉ケテ報セラレタルコト
第二、該新聞社通信員トノ会見ハ内密ナリシコト

編註 別添切抜省略

一八七 八月十九日 在ハイフォン森領事ヨリ
幣原外務大臣宛

日本ノ要求ノ対象トナル税率ニ關シハノイ商業會議所グラヴィツ会頭質問ノ件

（九月十日接受）

機密通送第一三号

在海防

領事 森 新一

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

河内商業會議所對「キルシュー」稅務長官川

対スル情報報告ノ件

河内商業會議所調成ノ日本政府要求税率対照印刷物ハ別信通送第一〇〇号ヲ以テ御送付致シ置候通りニ有之本官最近（省略）

河内ニ於テ同會議所会頭「グラヴィツ」氏ニ面会ノ節同氏ノ話ニ依レハ右税率対照考査ノ結果同商業會議所ニ於テ

ハ仏本国ノ一般税率ノ一部ノミカ目下當領ニ適用サレ居ルニ過キサルコトヲ初メテ發見シタル由ニテ仏本国ノ現行一般税率ト印度支那ノ現行一般税率トノ間ニ甚タシキ開キア

ヲ本官ニ申越シ且事情斯ノ如キニ付同氏カ「右新聞ノ報シタルカ如キ愚鈍ナル談話」（des propos aussi stupides que ceux rapportés par le journal en question）ヲ為シタリト

本官ニ信セサルルヲ好マヌ旨又同氏ノ真意ハ次回本官ニ面

談ノ節充分ニ説明スヘキ旨付記有之候

遮莫同氏カ日本ニ於テ又過日本官帰任ノ折同船中本官ニ漏

シタル口吻ニ徵シ右記事ノ内容カ大体ニ於テ同氏ノ意見ニ

相違無キ様認メラレ唯新聞通信員カ之ヲ露骨ニ摘発シタルモノナラント推察セラレ候尤モ右新聞紙ハ排日貨主義ヲ持

スルニ付「グ」氏ノ言葉ヲ多少誇張シ特ニ sensational ナ

ル筆法ヲ弄シタルヤヲ計ラレス候

尙ホ今回ノ「メルラン」總督及經濟委員一行ノ日本行ニ関

連シ同紙主筆 Mazet 氏ハ極力日本品ニ對シ門戸閉鎖ノ必

要ヲ論シ同シク河内日刊“L'Avenir du Tonkin”主筆

Dandoio氏ハ之ト反対意見ヲ發表致シ居リ候此両紙ノ論旨

ニ就テハ追テ別号ヲ以テ報告可申進候

敬具

追テ本信写在仏大使及在西貢領事へ

送付致シ置キ候

第一、同氏ノ意向ヲ支離滅裂ナラシメ同氏ノ語リタル真意ヲ甚タシク枉ケテ報セラレタルコト
第二、該新聞社通信員トノ会見ハ内密ナリシコト

ル處日本ノ要求ハ孰レヲ標準トシテ起算シタルモノナリヤニ付同会頭ヨリ「キルシュー」稅務長官ヘ照会シタルモ明答ヲ与ヘサリン由ヲ以テ本官ニ之ヲ知ルヤト問ヒタルニ付知ラスト答ヘ置候

「グ」氏曰ク仏本国ノ一般税率ト最低税率トノ差ハ莫大ナルモ印度支那ノ一般税率ト最低税率トノ差ハ左程甚タシカラス故ニ現行印度支那一般税率ハ是ヲ本国ノ一般税率ニ比シ既ニ恩恵税率トモ見ラルヘキナリト云ヒ同氏ハ三六八号（通送第一〇〇号付屬印刷物第九頁）生綿糸五一、〇〇〇乃至六一、〇〇〇「メートル」モノ百「キログラム」ニ対スル一例ヲ取り示シテ曰ク

仏本国一般税率一一二法係数四、五ヲ乗ジ 五〇四法

印度支那一般税率 四二法係数四、五ヲ乗ジ一八九法

印度支那最低税率 二八法係数四、五ヲ乗ジ一二六法

印度支那ニ於ケル一般税率ト最低税率ノ差 六三法

今印度支那カ日本ノ要求ヲ容ルルト仮定セハ右商品ニ對スル税額ハ最低税率ノ二割増即チ一五一法二〇參ナリ之ヲ

ニ其後一個月ニシテ本国ノ一般税率カ印度支那ニ適用セラ

レタリトセヨ其差ハ三五二法八〇參ノ多額トナル故ニ将来印度支那ニ本国ノ税率ヲ適用セサル保証ヲ得ハ可ナルモ斯ノ如キハ得テ望ムヘカラサルコトナルニ付調査委員ハ自己ノ意見ヲ定ムル前ニ先決問題トシテ孰レノ税率ヲ標準トンテ日本ノ要求ヲ攻究スヘキヤノ問題ニ逢着シ居ル處稅務長官カ明答ヲ与ヘサルニ付目下行惱ミノ姿ナリト云ヘリ尚又何カ故ニ本国税率ノ一部ノミヲ印度支那ニ適用シ全部ノ適用ヲ見サルヤトノ「グ」氏ノ問ニ對シ「キルシェー」氏ハ夫ハ前任者ノ誤リナリト答ヘタル由ニ候

「グ」氏又曰ク日本ノ要求ヲ攻究スヘク今回總督ヨリ諮詢アリタルニ際シ本件ニ關スル稅務長官ノ意見添付無キニ付總督府側ノ意向ノ在ル処一切不明ナルモ「キルシェー」氏ハ「グラヴィツツ」氏ニ向ヒ自分ハ日本ニ讓歩セサル意向ナリト明言シタルコトアル由依テ本官ハ「グ」氏ニ向ヒ「然ラハ何故貴會議所等ニ對シ該問題ノ調查ヲ命スルヤ「キルシェー」氏カ初メヨリ讓歩ノ意思ナントセハ貴會議所等ノ仕事ハ徒勞ニ屬スルニ非スヤ」ト反問シタルニ夫ハ不調ノ責ヲ商業會議所ニ負ハシメントスル「キルシェー」氏ノ魂胆ナラント察スル旨答ヘタリ

尤モ「グ」氏ノ云フ所ニ依レハ商業會議所議員中ニハ「キルシェー」氏カ將來仏領印度支那ニ本国ノ一般税率カ適用セラレヘキヲ予期シ其以前ニ日本ノ要求ヲ容レントスル下心ナリト信シ居レルモノモアリトノコトニ候

「キルシェー」氏カ嘘ヲ云フ人（政略上ノ意味ニテ）ニシテ決シテ約束ヲ実行セサル人ナルコトハ十数年来自分ノ実驗スル所ナリト「グ」氏カ先般帰航ノ船中ニテ小官ニ語りタルコトモ有之同氏ノ談話ヲ其儘記シテ御参考ニ供シ候尚「グラヴィツツ」氏カ最近本官ニ送リ越シタル書翰（別紙写ノ通）ニ依レハ河内ニ於ケル或一部ノ産業家及取引商ハ印度支那ニ本国税率全部ノ適用ヲ見サルハ總督府カ日本ニ利益ヲ与ヘント欲スルカ故ナリト主張スルモノアリト有之又「グ」氏ハ專委員ヲシテ本国税率カ全部適用サレタル場合ヲ標準トシテ速カニ調査ヲ完了セシムヘキコトニシタリト報シ越シ候ニ付其決議ハ頗ル我ニ不利益ナルモノアラント推察致シ候

要スルニ「グ」氏始メ調査委員等ハ「キルシェー」氏カ本件ニ關スル意見ヲ發表セス又同委員会ノ質問ニ對シ明答ヲ与フルコトヲ避ケ居ル為メ五里霧中ニ彷徨ノ体ニ有之候

本官ハ帰任以来八月十一日初メテ河内ニ上リタルモ「キルシェー」氏ハ山地ニ避暑中ニテ面会スルコトヲ得ス從テ同氏ノ意向ヲ探クル機會モ無之カリシ次第ニ有之候
右報告申進候 敬具

追テ本信写在仏石井大使及西貢古谷領事ヘ送付致シ置候

一八八 九月十日 在ハイフォン森領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

日本品ニ対スル税率讓歩ニ反対スル商工委員会

会ノ動向報告ノ件

第六〇号 (九月十一日接受)

貴電第二二号ニ関シ

商工委員会ノ抗議カ從来日本及印度支那關稅問題ノ解決ヲ妨クルモノナルコトハ再次報告シタリ「メルラン」總督カ日本ヨリ帰還後「サン」仏字新聞社長ニ日本及印度支那間ノ

通商協定カ印度支那及仏本国ノ利益ナリト声明シタルコトモ既報ノ通ナリ即總督ノ意見ハ商工委員会一派ノ主張ト相

容レス之ニ於テ乎右一派奮起シ機關新聞紙ヲ通シ日本ト闊通商協定カ印度支那及仏本国ノ利益ナラス併モ其ノ危険ハ近來益々大ナリト云ヒ日本品ニ対スル税率讓歩ハ東京モトヨンキヤ

一八九 九月十三日 在ハイフォン森領事宛（電報）
日本ノ要求ノ対象トナル税率ニ関シ回報ノ件

第二四号

貴信機密通送第一三号冒頭第一節末尾所載日本ノ要求ハ仏本國又ハ仏印孰レノ現行一般税率ヲ以テ標準トナシタルヤ

ノ点ニ関シ山村代理宛往電第一四号冒頭及貴官御持帰リノ

議事録ニテモ御承知ノ通当初税務長官ハ本邦品ニ与フル待

遇ハ一般最低両税率ノ中間税率トスルノ意向ナリシヲ以テ

右一般税率トハ孰レノモノヲ意味スルヤハ重要ナル關係ヲ

有シタリシモ彼我非公式交渉ノ結果本邦品ニ適用スヘキ税

率ハ現ニ印度支那ニ於テ適用セラレ居ル最低税率ヲ基礎ト

スルト共ニ之レカ為メ印度支那及仏本国ノ工業ニ打撃ヲ与

フル場合ニハ最惠国待遇付与ノ本旨ヲ失ハサル程度ニ幾分

ノ割増シヲナスモ差支ナキコトニ意見一致セシ次第ナリ從

テ日本ノ要求ニ付テハ河内商業會議所カ為スカ如キ質問ハ

起リ得サルモノナリ以上貴官為念

為参考在仏大使及西貢領事へ転電アレ

一九〇 九月十八日

在ハイフォン森領事ヨリ
幣原外務大臣宛

日本ノ要求ノ対象トナル税率ニ関スルハノイ

商業會議所グラヴィツ会頭ノ質問ニ関シ再報

ノ件

機密通第一四号

大正十三年九月十八日

(十月九日接受)

河内商業會議所ノ質問ニ関スル件

領事 森 新一(印)

在海防

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

八月十九日付機密通第一三号ニテ申進候「河内商業會議所對「キルシェー」税務長官ニ関スル情報報告」中河内商業會議所会頭ノ質問ニ関シ貴電第二四号御来示ノ趣拝誦該御來電ニ依レハ右機密拙信ノ意義充分御了解ヲ得サリシ様被察候ニ付更ニ左ニ説明申進候

日本ノ要求カ元ヨリ印度支那ノ現行一般税率ヲ対象。(前記

機密拙信中ニ標準ト云フ文字ヲ使用シタルモ誤弊アルニ付

対象ト改ム)トシ仏本国ノ一般税率ヲ対象トシタルモノニ

非ルコトハ常識ニテモ判断シ得ルノミナラス本官過般在京

中此件ニ関連シテ一夕川島部長ト「キルシェー」氏トノ間

ニ行ハレタル会話ニ参与シタルコト有之(正式協定成立迄

ハ仏本国ノ一般税率ヲ印度支那ニ適用セサルコトニ就テノ

「キルシェー」氏ノ口約)明ラカニ之レヲ推知シ居リタルモ此明瞭ナル問題ニ対シ「キルシェー」氏カ特ニ河内商

業會議所ノ質問ニ明答ヲ与ヘサリシコトヲ聞キ何等カノ魂

胆アルコトヲ察シ故ラニ之レヲ「知ラスト答ヘ置キ」タル

次第二有之候

加之印度支那ノ現行一般税率ヲ対象トシタルモノナリト有リノ儘ニ答フレハ却テ当方ノ不利益トナル結果ニ陥ルカ故ニ有之候其理由ハ前記機密拙信第二項グ氏曰ク以下「目下行惱ミノ姿ナリト云ヘリ」ノ記述ヲ御閲読被下候ヘハ自然御了解ノコトトハ存候ヘ共尚ホ為念左ニ敷衍説明可致候

此際順序トシテ先ツ左ノ二点ヲ明ラカニ致シ置キ度候

一、貴電中ニ「印度支那ニ於テ適用セラレ居ル最低税率

ヲ基礎トスルト共ニ」云々ト有之候モ最低税率ナルモ

ノハ仏本国モ印度支那モ同率ナルコトハ御承知ノ通り

ニ付「印度支那ニ於テ適用セラレ居ル」ナル文字ハ別

ニ意味無キコト解シ候

二、仏本国ノ現行一般税率(即チ一九二一年公布サレタルモノ)ハ原則トシテ全部印度支那ニモ適用セラルヘ

キ管ナルモ實際ハ翌一九二二年七月五日付總督令ヲ以

テ(大正一二、六、一、通送第七四号「*Lettre Commune*」No. 47 参照)其一部分支ケノ適用ヲ見タルニ止マル(植民地ハ參議院ノ承認ヲ経テ本国ノ一般

税率適用ニ除外例ヲ設クルコトヲ得一八九二年一月

五 日仏通商航海条約改定交渉 一九〇

十一日法律)之レハ原則ノ除外例ニシテ寧ロ偶然ノ事

実ト云フヘク總督ハ何時ナリトモ他ノ部分ノ一部又ハ全部ヲ印度支那ニ適用スル權能ヲ有ス是レ商業會議所ノ懸念スル所ニシテ同時ニ日本ノ要求ニ対抗スル材料トモ成ルコトハ後文ニテ御承知相成度候

却説河内商業會議所ノ質問ノ意義ヲ分解スレハ左ノ三項ト相成候

一、日本ハ一般税率カ高率ナルカ故ニ最低税率又ハ最低税率ノ二割増ノ税率ヲ要求セントスルコトヲ知ル然シ日本カ高率ナルト思惟スル一般税率ナルモノハ印度支那ノ一般税率ヲ指スモノナリヤ又ハ仏本国ノ一般税率ヲ意味スルモノナリヤ(即チ孰レノ一般税率ヲ標準若クハ対象トスルモノナリヤト云フ質問ヲ説明的ニ云ヒ

頗ハスコト斯クノ如クニ候)

二、日本ノ要求カ若シ印度支那ノ一般税率ヲ対象トスルモノナラハ夫ハ謂レナシ何ントナラハ印度支那ノ現行一般税率ハ之レヲ本国ノ一般税率ニ比スレハ遙カニ低率ニシテ寧ロ恩恵税率トモ見ラレ得ヘケレハナリ然シ日本カ最低税率ニ二割ヲ増サント云フナラハ現行

印度支那一般税率ト日本ノ申出税率トノ間ニ大シタ差ナキニ付仮リニ之ヲ許与スルトスルモ他日本國一般税率全部カ印度支那ニ適用サレタル場合ニハ日本ノ要求税率ト此本国一般税率トノ間ニ大ナル開キヲ生ス此場合ヲ如何ニスヘキヤ

三、日本ノ要求カ若シ仏本国一般税率ヲ対象トスルモノ

ナラハ其要求ハ尤モナリ何トナレハ仏本国一般税率ハ

非常ニ高率ナレハナリ然シ此場合日本ノ申出ツル税率

ト仏本国一般税率トノ間ノ開キ余リニ大ナリ換言スレ

ハ日本ノ申出税率テハ不充分ナリ

右第一ノ如キ簡単明瞭ナル質問ニ対シ「キルシェー」氏カ

特ニ明答ヲ与ヘサリシハ此問題カ明ラカニ第二及第三ノ如

キ dilemmaニ陥リ居ルカ故ト推察致シ候

又貴電末段ニ「従テ日本ノ要求ニ付テハ河内商業會議所カ

為スカ如キ質問ハ起リ得サルモノナリ」ト有之候へ共前記

機密拙信自身カ説明致シ居リ候通「キルシェー」氏ハ商業

會議所ニ対シ東京ニ於ケル非公式交渉ノ内容ヲ全然打明ケ

サリンカ為メニ此ノ如キ質問カ起リタル次ニ有之候

問題ハ要スルニ日本ハ仏本国ノ現行一般税率ノ全部カ印度

機密第一三号拙信ノ要点カ行文不行届ノ致ス処カ悉ク御了解ヲ得ス却テ長電ノ御説明ヲ煩ハスニ至リ其御説明ニ対シ又本信提出ノ必要ヲ見ルニ至リタルハ誠ニ遺憾ニ不堪候貴電第二四号ハ命ニ依リ巴里及西貢へ転電致シ同時ニ本信写モ夫々送付致シ置候

右申進候 敬具

一九一 十月一日 常原外務大臣（ヨリ）
在仏国石井大使宛（電報）

答礼使節団ハノイ滞在中インドシナトノ間ノ
関税協定案ヲ作成シ得ルヨウ早急ニ仏国首相
ト会談方訓令ノ件

第三一八号

貴電第二七五号末段及第四〇二号末段ニ関シ

政府ニ於テハ民間關係方面ト共ニ過般ノ「メルラン」一行渡來ニ対シ本年十一月下旬ヨリ十二月ニ涉リ開催セラルヘキ河内ニ於ケル見本市ヲ機会トシテ答礼団ヲ派遣シタキ内意ヲ以テ目下詮議中ノ次第アル処該答礼団派遣ノ目的ハ本邦ト印度支那トノ間ニ於ケル一般通商産業上ノ関係ヲ密接ナ

ラシムル外本年五月總督ニ隨行シ来レル稅務局長ト松平次

五 日仏通商航海条約改定交渉 一九一 一九二

五 日仏通商航海条約改定交渉 一九三 一九四

答札団派遣ノ場合インドシナ関税問題ニツキ

インドシナ当局者ニ訓令方仏国当局ニ申シ入

ルベキ旨回報ノ件

第四四五号

(十月七日接受)

貴電第三一八号ニ閲シ

答札団派遣御決定ノ場合ニハ印度支那当局者ニ訓令方仏本

國当局ニ申入ルヘシ但印度支那問題ニ付テモ結局本国政府

ノ裁定ニ帰スル事勿論ニ付答札団ノ渡航ニ大ナル希望ヲ懸

クル能ハス本件ニ関シ九月十一日本使ヨリ閣下宛親展書米

國經由發送シアリ

右御查閱ノ上御決定願度シ

一九三 十月八日 在仏國石井大使ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

日仏通商条約改正交渉ニ関シエリオ首相ニ申

シ入レノ件

第四四八号 (十月九日接受)

閣下宛本使私信(往電第四四五号)ノ事情ニ依リ本使ハ八

日首相トノ会見ニ於テ日仏通商条約改正……談判ヲ開

始シ先ツ以テ関税以外ノ問題ヲ片付ケ度シト申込ミタル処

那関税問題ヲ巴里ニテ開談スルコト異存ナシ(「キルシェ
ー」ハ兩三日中ニ帰巴ノ趣キ)

(三)次ニ一応明ラカニシ置キタキハ日本ニ於テ十割税ニ依リ
改正セラレタル現行関税ヲ基礎トスルヤ将又十割税前ノ関
税ヲ基礎トシテ商議スヘキヤ又協定税率ヲ許与スルノ意向
ナリヤ總テ仏国トシテハ仏国輸入ニ *intéresse* スル日本品
ニハ最低税率ヲ然ラサルモノニハ中間税率ヲ与フルノ方針
ナリト述フ

(4)右関税問題ニ関シテハ當方ヨリ深入リスルヲ止メ單ニ十
割税ハ暫行措置ナレハ早晩廢止セラルヘキモノト信ス協定

税率許与ノ件ハ仏国側ノ希望品目ヲ承知セサレハ何トモ返
事出来サルヘシト答ヘ置キタリ

(5)我方ヨリハ先ツ第五条第十五条及第十九条ニ関スル御來
示ノ改正案ヲ摘記シ関税問題ニ付テハ現在ノ状況ニ於テハ

原則トシテ現行協定ニ手ヲ加ヘサルコト只仏國改正税目近
ク議会ニ提出ノ趣ナレハ日本産絹製品ヲ歐州產待遇トスル
ノ方法ヲ講スルコト印度支那加入問題ハ主義トシテ異議ナ
キヤノ諸点ヲ列記セル「ノート」ヲ提出シ改正案ニ対シテ
ハ次回先方ヨリ対案提出スルコトニ決定印度支那加入問題

二三八

首相ハ直ニ承諾セリ間モナク商務大臣ヨリ電話アリ通商条

約局長「セルイス」氏ヲシテ談判ノ衝ニ当ラシムル旨通シ

来レリ

一九四 十月十六日 在仏國石井大使ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

日仏交渉第一回会合ニ於ケル双方ノ提案報告ノ件

第四六三号 (十月十七日接受)

(1)日仏交渉第一回会合十五日商務省ニテ開催先方ヨリハ
「セルイス」外務植民両省ノ代表者當方ヨリハ松島寺島

出席ス

(2)「セルイス」ハ先ツ一九一九年法制定ノ理由ヲ詳述シテ
仏國政府ノ通商談判特ニ関税問題ニ対スル態度ヲ明カニシ
タル後(右ハ已ニ御承知ノ事ナレハ省略ス)今回ノ改正談
判ニ於テハ日本印度支那間ノ問題ト仏本土日本間ノ問題ハ
截然區別シテ討議スルコトヲ要ス但日本品カ印度支那ニ於
テ協定税率ノ利益ヲ享受スル時ハ右ハ必然ニ仏本土ノ工業
ニ影響ヲ及スヘキカ故ニ之カ對償ノ意味ニテ日本ニ輸入ス
ル仏本土品ニ特遇許与方考慮セラレンコトヲ望ム尚印度支

ナ出席ス

在欧各大使ヘ暗送セリ

一九五 十月二十一日 在仏國石井大使宛(電報)

インドシナ関税交渉一切ヲ仏國デ行ウ方便宜

ト思考サレルニツキ先方ト打合ノ上結果回電

方訓令ノ件

第三三五号

貴電第四四五号及第四六三号末段印度支那関税問題ニ關シ
「キルシェー」長官ト更ニ予備交渉ヲ重ネルタメ答札使一
行中ニ本省係官ヲ加フヘキ予定ナリシ處前記貴電末段ノ次
第ナルニ付テハ右係官差遣ノ必要モナカルヘク幸「キルシ
エー」モ貴地ニ赴キタルニ付本件交渉全部ヲ貴地ニ於テ行

方便宜ト思考スルニ付右先方当局トモ御打合セノ上結果
至急回電アリタシ

一九六 十月二十二日 在仏國石井大使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

日仏通商条約改訂交渉ニ関シ心得置クベキ事

項請訓ノ件

第四七三号 （十月二十三日接受）

貴電第三三五号ニ関シ

本件交渉ニハ不取敢貴信機密第一〇号非公式会合議事録ヲ
基礎トスル様提議スル所存ナル処同信付属割引表列記ノ印
度支那產物ニ与フル待遇ノ程度ハ既ニ先方ニ御内示済ナリ
ヤ其他心得置クヘキ事項御回示ヲ請フ

一九七 十月二十二日 在ハイフォン森領事ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

仏本国一般税率ノインドシナ適用ニ関スル總

督府側ノ態度報告ノ件

第六八号 （十月二十三日接受）

過般「キルシェイ」西貢通過帰國ノ際同地商業會議所カ同
官列席ノ上開キタル會議ノ議事速記録（「グラビツ」）カ

本官ニ内示シタル所ノヲ見ルニ「キルシェイ」ハ本国一般税率ヲ印度支那ニ適用スル決意ナルコトヲ明言シ日本ノ要求ハ夫レニ関スル基礎トシテ研究スヘシ但シ急クニ及ハス明年一二月頃自分帰任ノ上ニテ諸君ト協議スヘント述べ居レリ依リテ十月二十一日総督ニ会ヒ夫トナク仏本国一般税率カ適用セラルヘシトノ噂ヲ聞クカ如何ニヤト尋ネタルニ總督ハ唯輕ク夫レハ流言ニ過キス但シ日本ノ十割新税率ハ甚タ惡シキ印象ヲ与ヘタリト答ヘ否認ノ仕方曖昧ナリ總督ノ意見カ「キルシェイ」ト一致シ居ルヤ否ヤ推測シ難キモ「キルシェイ」ハ巴里當局者ヲ説キ電命一下總督ヲシテ本国一般税率適用ノ発令ヲ為スノ已ムナキニ至ラシムルナキヲ保シ難シ特ニ御注意申進ム

仏、西貢ニ転電セリ

一九八 十月二十七日 在ハイフォン森領事ヨリ

幣原外務大臣宛

仏本国一般税率ノインドシナ適用ニ関シ報告ノ

督府及ビ各地商業會議所ノ態度ニ關シ報告ノ

通送機密第一六号

大正十三年十月二十七日

（十一月二十二日接受）

在海防

領事 森 新一（印）

外務大臣男爵 币原 喜重郎殿

西貢商業會議所ノ態度及「キルシェイ」氏カ同會議

所ニ於テ発表シタル意見ニ關スル件

本月四日河内商業會議所会頭「グラヴィツ」氏海防ニ下
リタル際本官ヲ來訪シ語ル所左ノ如シ

西貢商業會議所ハ日本ノ減税要求品目表ノ各目ニ対シ
悉ク「拒絕」（refusé）ト付記シ之レヲ西貢商業會議所

ノ決議トシテ當時西貢ニ在リシ「メルラン」總督（總

督ハ七月中旬ヨリ十月上旬迄避暑ノ為メ西貢方面ニ滞
留シタリ）ニ報告シタリ總督ハ「ボンムライエ」会頭

ヲ呼ヒ斯ノ如キ報告ノ受理シ難キコトヲ告ケテ之ヲ却
下シ再調査ヲ命シ且其内ニ帰國ノ途次西貢ニ立寄ルヘ

キ「キルシェイ」稅務長官ノ意見ヲモ聞クヘシト命シ
タリ

依テ同商業會議所ハ會議ヲ開キ結局前ノ報告ハ一応撤
回シ「キルシェイ」氏ノ来港ヲ待ソコトトシ且元印度
支那稅務官ニシテ目下経済事項調査ノ為メ西貢ニ出張

五 日仏通商航海条約改定交渉 一九八

日河内ニ招集サルヘキ總督府諮詢會議（Conseil de
Gouvernement）ニ各商業會議所ノ報告ヲ提出シテ審
議ニ付スヘキコトヲ提言シタリ

尚ホ「グラヴィツ」氏曰ク

「キルシェー」氏ハ西貢ニ於テ極メテ意外ナル意見ヲ發表シタル由伝聞スルモ果シテ如何ナルコトヲ云ヒタルシエー」氏ノ發表シタル意見ナルモノ略ホ推察シ得タルモ尚念ノ為メ本官ハ十三日河内ニ出向キ其後ノ情報ヲ「グ」氏ニ尋ネタリ

「グ」氏ハ多忙ノ為メ本官ニ通信スルコトノ後レタルヲ謝シ且曰ク最近西貢ヨリ受取りタル通信ニ依レハ「キルシェー」氏ノ意見ハ先ツ本国一般税率ヲ印度支那ニ適用シ然ル後日本ノ要求ヲ研究スヘシト云フニ在ルカ如シトテ頗ル激昂ノ態度ニテ語リテ曰ク

斯ノ如キハ余ノ甚タ意外ニ思フ所ニシテ日本ニ対シ正直ナル態度ト云フヘカラス余ハ飽ク迄モ之ニ反対スヘシ抑モ日本トシテハ一般税率カ孰レナリトモ夫ハ日本ノ閔スル処ニ非ス只最低税率ノ二割増ヲ要求シ居ルニ

対シ印度支那一般税率ヨリ三倍モ高率ナル本国一般税

率ヲ適用セントスルハ日本ヲ愚弄シタル仕方ナリ(On se moque du Japon)然モ懸案問題カ今後何年ヲ經テ解決セラルルヤモ計リ難キニ其間日本ハ此高率ナル関稅ヲ支払ハサルルナリ余カ常ニ云フ如ク「キルシェー」氏ハ表裏ノアル男ナリ(C'est un homme à double face)吾人カ日本ニ於テ各地ノ実業家ト了解シ来リタル處ハ印度支那若クハ仏本国ノ製品ト競争トナル恐ナキ日本品及現ニ印度支那カ他国ヨリ輸入シツツアル品ハ可成之レヲ日本ヨリ輸入スル様協定ヲ試ミント云フニ在リ吾人ノ行動ハ此範囲ヲ脱出スヘカラサルナリ但シ調査ノ便宜上本国一般税率ヲ印度支那ニ適用スルコトノ可否ニ就キテハ余モ考ヘ居ラサルニハ非ルモ此場合現時ノ懸案問題ノ解決スル迄現行一般税率ヲ日本ニ保留シ置クコトヲ条件トセサルヘカラス云々

依テ本官ハ「グラヴィツ」氏ノ許ヲ辞シ直チニ総督府ニ政治部長「ジャンブロー」氏ヲ訪ヒ西貢方面ニ於テ印度支那ニ仏本国一般税率カ適用セラルヘシトノ風評アリト伝ヘ聞クモ果シテ事実ナリヤト尋不タルニ同氏曰ク

本来仏本国一般税率ノ全部カ印度支那ニ適用セラレ居

官ニ都合付次第自動車ニテ一寸上河出来間敷哉ト申送リ来ル依テ本官ハ「ジャンブロー」氏ト予メ打合セ置キ二十一日再度河内ニ上リ総督ニ面会ス

会話要点左ノ如シ

本官 近頃仏本国一般税率カ印度支那ニ適用セラルヘシト云フ話ヲ耳ニ致スカ事実如何ニヤ斯ノ如キ問ニ答ヘラルコトハ總督ニ取リテハ御困難ナラント存スルモ聊カ掛念ニ堪ヘサルニ付敢テ御高見ヲ伺フ次第ナリ

總督 夫ハ人ノ風評ニ過キス(C'est une histoire qu'on raconte)然シ日本カ十割ノ新関稅ヲ課シタルハ此際非常ニ惡シキ印象ヲ与ヘタリ

本官 当初彼ノ法律案ニ対シテ我外務当局ハ頗ル之レニ反対ナリシモ議会ヲ通過シタル今日如何トモスヘカラサル状況ニ在ルモノニシテ甚タ遺憾ナリ

總督 何レノ國ニ於テモ内政上ノ関係アルハ止ムヲ得サルコトナリ

本官 対日関稅問題ニ閔スル總督ノ御感想如何

偶々「グラヴィツ」氏ヨリモ重要ナル件ニ付本官ニ面談シ度キモ同氏ハ多忙ノ為メ海防ニ下ルコト困難ナルニ付本

モ日本ノ要求ニ副フヘク慎重ニ取調中ナリ

本官 印度支那ニ於ケル新聞論調ニ徵シ余ハ本問題ヲ甚
タ悲観致シ居ルモノナリ

總督 孚レノ新聞ナリヤ

本官 「フランス・アンドシンヌ」ノ論調ハ殊ニ反日的
ナリ

總督 新聞ノ云フ所ニ重キヲ置ク必要ナシ貴官ハ「レヴ
イユ・エコノミック」ヲ読マルルヤ

本官 読ミ居レリ

總督 然ラハ「フランス・アンドシンヌ」ニ反対ノ論説
アルコトモ知ラルルナラン孰レニシテモ斯ノ如キ
問題ハ一朝一夕ニシテ解決セラルヘキモノニアラ
ス忍耐シテ一般ノ傾向カ変展スルヲ待ツヨリ外ナ
キナリ云々

却説此日ハ午後三時總督ニ会フ約束ナリシ為メ午前中商業
會議所ニ「グラヴィツ」氏ヲ訪フ同氏ハ其後西貢商業會
議所ニ於ケル「キルシェー」氏トノ會議速記録ヲ入手シタ
ル趣ヲ以テ「キルシェー」氏カ本国一般税率ノ適用ヲ決意
シ居ルコト明ラカナル旨ヲ語ル尙ホ速記録ハ自宅ニ在ルニ

付午後總督ト会見後本官ニ来宅ヲ乞フ即チ午後五時同氏私
宅ニ赴ク同氏カ本官ニ示シタル速記録ハ頗ル浩瀚ナリ同氏
ハ其大部分ヲ本官ニ読み聞カス
「キルシェー」氏ハ劈頭第一ニ余ハ官吏トシテノ資格ニ於
テ此席ニ連ナルニ非ス印度支那ノ一商人ノ積リニテ諸君ト
共ニ吾人ノ利益ヲ計ラントスルモノナリト述ヘ一席ニ阿ル
モノノ如ク其云フ所ハ要スルニ先ツ本国一般税率ヲ印度支
那ニ適用シ以テ最低税率トノ間ニ大ナル懸隔ヲ作り置キ日
本ノ要求ニ対シテハ新一般税率ヲ基礎トシテ折衝ン日本カ
值切ルニ從テ漸次切り下ケ結局現今ノ一般税率ヨリモ高率
カ歛クトモ同率ナルモノヲ与ヘテモ尙ホ印度支那トシテハ
多大ナル讓歩ヲナシタル形トナサン然シテ日本カ之レヲ承
諾スルコト請合ナリト云フニ在リ
右ニ対シ議員ノ一人カ「左スレハ貴官ハ日本ノ要求ニ対シ
毫モ同意サレ居ラサルヤ」ト問ヒタルニ対シ「キルシェ
ー」氏ハ「余ハ初メヨリ日本ノ要求ヲ研究セス又何モ云ハ
サリシニ日本カ余ニ無理ナ注文ヲ為シタルノミ」ト答フ以
下各議員ト「キルシェー」氏ノ間ニ行ハレタル問答ノ主要
ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

問 「若シ本国一般税率ヲ印度支那ニ適用スト云ハハ
日本ハ夫レテハ話ノ根底カ違フト協議ヲ拒マス
ヤ」

答 「其時コソ日本ハイヤテモ応テモ協議セサルヲ得
ヤ」

「英國ハ最低税率ヲ享有シ米國ハ特惠税率ニ浴ス
故ニ彼等ハ何モ云ハサルヘシ」

「キルシェー」氏ハ尙ホ曰ク吾人ハ頗ル便利ナル関税率ヲ

有スルカ故ニ宜シク之レヲ利用セサルヘカラス仏國モ必ス
ヤ吾人ノ云フ處ヲ聽キ吾人ヲ援クルニ相違ナシ依テ吾人ハ
之レヲ本国政府ニ提議セントスルモノナリ云々

「キルシェー」氏ノ云フ所ハ全ク予想外ニシテ我當局者ヲ
以テ与ミシ易キモノト侮蔑シ明ラカニ日本ヲ瞞着セント仕

組ミツツアルナリ即チ貴大臣宛拙電第六八号ヲ以テ本件概
要申報致シタル次第ナリ

右速記録原文中最モ重要ナル条項丈ヶ抜書キトシタルモノ
ヲ本官ノ依頼ニ依リ極秘条件ノ下ニ「グラヴィツ」氏ヨ
リ入手致シタルニ付別信機密通送第一七号ヲ以テ貴覽ニ供
ス但シ該抜書キハ郵送ノ途中紛失又ハ漏洩ノ虞ナシトセサ
ルニ付巴里及西貢へハ送付ヲ見合スコトト致シタリ

ナリスクテハ全然問題ノ局面カ違フコトトナル」云々
一議員又曰ク「要スルニ貴官ハ日本ヲシテ今迄ヨリモ百法
少ナク支払ハシムルコトノ代リニ今迄ヨリモ却テ二十法多
ク支払ハシメントスルニ在リ我等ノ提灯ノ火ハ暗ラカリシ
ナリスクテハ全然問題ノ局面カ違フコトトナル」云々

右報告申進候 敬具

本信送付先

在仏 石井大使

在西貢 古谷領事

一九九 十月三十日 在サイゴン古谷領事ヨリ
幣原外務大臣宛

関税改正問題ニ関スルサイゴン商業會議所議

事録送付ノ件

公領第一四六号

(十一月二十一日接受)

大正十三年十月三十日

在西貢

領事 古谷 栄一 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

関税改正問題ニ関スル西貢商業會議所議事録送付ノ件
当地商業會議所ハ日本印度支那間ノ関税改正問題ニ関シ先
般当領総督ヨリ會議所ノ意見ヲ徵セラレ七月二十二日開会
ノ會議ニ於テ曩ニ渡日セル会頭「ド・ラ・ボムレイユ」氏
ハ偶爪哇旅行中ナリシ為副会頭之ニ代リ議事ヲ進メ劈頭第
一右諮詢ニ対シ議員中ヨリ調査委員ヲ指名シ詳細調査スル
コトニ決シ次テ議員ヨリ「或日本品ハ英國品ノ仕払フヘキ
輸入税ノ五倍六倍又ハ七倍ヲ課セラレ居ルトノコトナルモ

成度此段申進候 敬具

本信送付先 在仏石井大使

編註 別紙議事録ハ省略

一〇〇 十一月四日

在仏國石井大使宛 (電報)

日仏通商条約改訂交渉ニ関シ心得置クベキ事
項ニツキ回訓ノ件

第三五八号

貴電第四七三号ニ閲シ

一、印度支那産物ニ対スル特遇程度ハ先方ニ内示スミナリ
二、交渉ニ当リテハ議事録ヲ基礎トセラレタキ次第ナルカ
右議事録ニハ我利害關係アル特定品目ヲ列記シ且税率ニ関
シテハ物品ニヨリ最低税率ニ二割程度以下ヲ増加スルモ差
支ナシトセルモノアル処右ハ御承知ノ通り英米品トノ競争
關係上運賃ニ於テ我ニ有利ナル程度丈ヶ譲歩スルノ立前ニ
ヨル妥協案ナルニ付之レカ為メ先方ヲシテ我ニ於テ原則ト
シテ中間税率ヲ甘受シ一般的ニ最低税率適用ノ主張ヲ撤回
シタルモノト思料セシメサル様御注意アリタク当初右議事
録作成前我ニ於テハ原則トシテ最低税率ノ適用ヲ主張シ先
鋒作成前我ニ於テハ原則トシテ最低税率ノ適用ヲ主張シ先

五 日仏通商航海条約改定交渉 二〇〇

斯ル事實ナキコト」「英國品ハ日本品ヨリ軽キ関税ヲ課セ

ラレ居ルトスルモ此税率上ノ差ハ両者ノ仕払フヘキ運賃ノ
差ニ因リ問題トナラサルコト」「英國ハ日本ヨリ労銀遙ニ
高キコト」「英國品ハ特別税率ノ恩恵ヲ受ケ居ルモ之ニハ
直輸入ヲ必要条件トスルコト」「國家的見地ヲ離レ論スレ
ハ当地ノ輸入商ハ外国品ヲ売り均シキ利益ヲ挙ケ得ルモ外
国競争品ニ恩恵ヲ与フレハ仏國工商業ハ著シキ損害ヲ受ク
ヘキコト」「日本人カ當領ヨリ十分ノ米ヲ買入サルハ彼等
カ余リ印度支那米ヲ悦ハサルタメナルコト」「日本ハ日本
品ニ対シ減税ヲ求メナカラ仏國品ニ対シ十割ノ重税ヲ課ス
ルニ至レルコト」等夫々自己ノ立場ヨリ反対意見ヲ述ヘ最
後ニ本年五月 Le Figaro 紙上ニ掲載セラレタル最低税率
ニ関スル評論ヲ挙ケ之ニ共鳴シ不取敢會議所ヨリ在巴里印
度支那商工業委員ニ打電シ日本ノ要求スル特別待遇ハ本国
輸出業者及当領商業ニ著シキ損害ヲ与フルモノナルコトヲ
仏國商業會議所連合会ニ注意センコトヲ求ムルコトセル
カ其電文及右ニ関スル議事録此程印刷ノ別紙議事録ニ掲載
セラレ居之ニ依リ本問題ニ対スル当地會議所議員連ノ反対
振等大体窺ハレ候ニ付一部及送付候間委細右ニテ御了知相

方ニ於テハ例外的ニ之ヲ適用スヘキヲ固執シタルカ右原則
ノ問題ハ條約加入問題ノ節本国トノ交渉ニ譲ルコトシ不
取敢一応我ニ利害關係アリト考ヘラル品目ニ対シ相互ノ
見解ヲ開示スル意味ニテ右特定品目ヲ選ヒ適用希望ノ税率
ヲ掲示シタル次第ナレハ右ノ点御含置アリタク又右ハ當時
双方意見交換ノ基礎トシテ急速ニ作成シタルモノニシテ前
記特定ノ物品ニ対スル税関ノ記載等ニ付テモ今後多少ノ変
更又ハ追加ヲ申出ツルヤモ知レス日下関係省ニテ調査中ナ
ルハ御含置カレタシ
三、特定品目ニ対シ記載セル最低税率ニ対スル二割增ニ関
シ海防マテノ英米ヨリト本邦ヨリトノ運賃ノ差額カ同一物
品ノ印度支那関税ニ対スル割合ヲ其後種々ノ資料ニ付調査
シタルニ右差額カ最低税率ノ二割以下ニ在ルモノ多ク加之
本邦ヨリノ運賃ハ英米ヨリスルモノニ比シ低廉ナルモ船積
ニ至ルマテノ諸掛 (調査表「キルシェー」ヘ手交スミ) 英米
等ニ比シ極メテ不廉ナルニ付前記二割ノ増加ハ我ニ於テ寧
ロ不利ナル立場ニ在ルハ注意ヲ要ス (以上運賃差額計算表
及諸掛表郵送ス若シ交渉上必要生セハ大略電報スルモ差支
ナシ) 将又純理ヨリイヘハ印度支那ニ於テ距離ノ差ヲ理由

トシテ英米品ト日本品トノ間ニ税率ヲ異ニスルニ於テハ日本モ英米品ト印度支那品トノ間ニ差ヲ設ケサルヘカラサル次第ニ付貴地ニ於ケル正式交渉ノ際増加率ヲナルヘク輕減スル様試ミラレタシ

四、以上ハ印度支那ニ於ケル我商品ニ対スル適用税率ニ関スル妥協案ハ我ニ於テ難キヲ忍ヒ案出セル讓歩ナルカ故ニ之レカ為仏本国ニ於ケル適用税率ニ関シ無制限最惠国待遇ノ交換ヲ必要トル我主張ニ影響ヲ及ホササル様御注意アリタシ

二〇一 十一月十二日 紛原外務大臣ヨリ
在仏國石井大使宛（電報）

インドシナニ於テ我国商品ニ適用サルベキ関

税率及ビ我方ガ日仏交渉ノ基礎トスル関税等

二関シ通報ノ件

第三七三号

一、貴電第四六三号（一）ニ関シ

日本印度支那間及日本仏本土間ノ兩問題ノ商議ヲ截然区別スルコトニ付テハ異議ナク当方トシテハ寧ロ前者ニ対スル交渉ヲ先ニシ出来得ヘクハ「キルシェー」長官仏國

滞在中ニ之ヲ纏メ度キ意向ナリ蓋シ仏本国トノ条約殊ニ協定税率ニ関シテハ之レカ改正ニ一日ヲ争フ必要ナク略略往電第九五号極東産綿織物ニ対スル最惠国待遇ノ拡張及議定書第二条ノ解釈ヲ確定シ得ハ足ル次第ナルモ印度支那ニ対スル條約適用問題ニ付テハ此ノ機ニ是非解決ヲ計リ以テ從来ニ於ケルカ如ク不快ナル論議ヲ繰返スラ避ケタキ意向ナリ尤モ先方ニ於テハ一面両者ヲ截然區別スヘキヲ唱ヘナカラ他面印度支那ニ於ケル利益許与ニ対シ仏本土品ニ対スル殊遇許与ノ対償ヲ求ムル意向ナルカ如キ處印度支那ニ対シ我ノ要求スルトコロハ單ニ仏本国及印度支那ノ産業ニ影響ヲ及ホササル範囲内ニ於テ主義上最惠国待遇ノ保障ヲ得ムトスルニ止マリ例ヘハ綿糸ノ場合ノ如ク特ニ印度支那ノ最低税率ヲ引上クルコトモ敢テ異議ナキ次第ナリ先方ニ於テハ常ニ印度支那ノ条約加入ニヨリ何等利スルトコロナキヲ云々スルモ右ハ本邦ニ於テハ先方ト異リ殆ント单一輸入税ニ近ク殊ニ印度支那ヨリノ輸入品ニ付テハ大体我産業保護上更ニ輕減ノ余地ナキ低率ヲ課スル現制度カ永遠ニ持続セラルヘキコトヲ予測セルカ為ナルヘキ處目下本邦ニ於テハ現行ノ国定税率

ヲ条約国ニ対スル優遇税率トナシ別ニ幾分高キ税率ヲ一般税率トシテ制定セムトスルノ議アリ（関税率法第四条所定報復税率ノ意味ニ非ス）若シ同案實行ノ暁ニハ印度支那ノ如キ從來ノ通り無条約狀態ナルニ於テハ晏如タルヲ得サルヘシ

二、同上（三）ニ関シ（a）現行協定品ニシテ十割税ニ該當スルモノニ付テハ該十割税カ暫定的ノモノタルニ関セス之アル限り右ヲ基礎トシテ協定税額ヲ算出スヘキ次第ナルカ往電第二七九号後段記載ノ通り七月三十一日ヨリ五個月ヲ経過シタル十二月三十一日ヨリ適用セラルヘキモノハ現行協定歩合ヲ十割ニ乗シタルモノヲ課スル次第ナリ尚右往電前段記載ノ前記五個月ノ猶予期間ヲ短縮スルノ交渉ハ既ニ十割税実施後約三個月ヲ経過シタル今日之ヲ開クコトヲ思止マルノ外ナキモ前記五個月ノ猶予期間設定ハ往電第二七九号所載仏国政府ニ於テ羽二重等ノ協定品ニ対シ右ノ如キ猶予期間ヲ与ヘサリン前例ニ鑑ミ確定的ノ

言明ヲ与ヘ得サル次第ナリ尤モ出来得ルナラハ此ノ際將來ニ涉リ右様ノ言明ヲ与フルト共ニ之ト交換的ニ往電第一九五号ノ趣旨ナリトモ此ノ際協定シ得ハ好都合ト思考ス

二〇二 十一月十七日 在仏國石井大使宛（電報）

条約改正ハ取敢エズ暫定協商ニヨル方有利利

ル旨ノセルイス通商条約局長ノ内話ニツキ請

第五二五号

（十一月十八日接受）

「ライス」ヲ往訪シ懇談シタルニ先方ノ云フ処大要左ノ如シ
仏國ヨリ見レハ今回條約改正ニ二途アリ甲ハ現行條約ノ逐
條的改正ニ取掛カル事乙ハ逐條的改正ヲ後回シトシ不取敢
暫定協商ヲ遂クル事之ナリ甲ナレハ一九一九年法律ニ遵守
スル必要アル外現ニ懸案タル仏、独談判ニ影響スル点ハ多
大ノ考量ヲ為ス必要モアリ乙ナレハ議会ノ協賛ヲ要セス容
易ニ締結スルヲ得ヘシ此ノ場合ニハ直接運送ノ如キ主義ノ
問題ニ触ルルヲ得ス純粹ナル輸入税問題ニ限ラルヘシ日本
ノ提案ハ甲乙両方ニ亘リ居ルニ付孰レカ選ハサルヲ得ス自
分トシテハ不敢暫定協商ヲ為シ逐條改正ハ仏、独談判ノ
終リヲ俟チ仏カ獨ニ譲リタル程度ヲ見極メテ後ニ為サルル
方日本ノ為利益ナルヘシト思フ日本カ乙ヲ選フト決セハ仏
ハ今回ノ日本奢侈税ヲ脱シテ現行條約 annexe ノ協定税回
復ヲ求ムヘク之ニ対シ日本ニ向ヒ同 annexe ノ利益ヲ与フ
ル外絹物ニ関シテハ伊国等ト殆ト同様ノ待遇ヲ提供スルヲ
得ヘシト自分限りハ思考ス云々本使ハ以上内話ノ好意ヲ謝
シタル上印度支那ニ関シ仏商業會議所カ依然トシテ日本ヲ
以テ仏工業ト競争スルモノトノ誤解ヲ抱クヲ指摘シテ繰返
シ説明シタルニ対シ先方ハ之ヲ諒シ日本ノ希望カ最低税率

右対日意見ノ一節ニ曰ク

印度支那輸入貿易ノ五割ハ現ニ尙ホ外国品ノ供給ニ待ツ
故ニ日本カ此分ケ前ヲ取ルトモ毫モ仏本国及印度支那自
体ノ貿易ニ危害ヲ及ホスコトナキハ論ヲ俟タス一方印度
支那ハ将来ニ於ケル自國品輸出ノ途ヲ開ク為メ之レカ準
備ヲ為ス必要アリ

印度支那ハ極東ニ於ケル經濟的環境内ニ動作シツツアル

モノナルコトヲ忘ルヘカラス印度支那ノ產物ハ印度支那
ヲ周縁スル凡テノ國カ要求スル品物ナリ此產物中ニハ距

ニ在リトセハ印度支那ハ之ヲ与フル覺悟アレトモ或ルモノ
ニ対スル最低税率ハ等シク日本ニ与ヘ得ヘキ tarifs spéciaux ニー、三倍スルモノアル事ヲ注意シ尚印度支那ノ関稅
率ニ付テハ目下各商業會議所ノ意見ヲ徵シツツアレハ來年
一月ニ至レハ各意見ヲ纏メテ税率改正ヲ議シタル上談判ヲ
為シ得ヘシト述ヘタリ

「セルイス」氏カ仏独談判ノ結果ヲ待ツ方日本ノ利益ナル
ヘシト云ヘルハ今回ニ始マリタルニ非ス如何ナル都合アル
ヤ計ラレサルモ幾分理由アリト思ハル又日仏通商カ一日ヲ
争フテ正式條約成立ヲ要スル事情アリトモ思ハレサレハ先
方ノ發意ヲ採用シ此際暫定協商談判ニ移リ逐條改正ハ後回
シト致ス方得策ト思考ス何分御電訓ヲ待ツ

復ヲ求ムヘク之ニ対シ日本ニ向ヒ同 annexe ノ利益ヲ与フ
ル外絹物ニ関シテハ伊国等ト殆ト同様ノ待遇ヲ提供スルヲ
得ヘシト自分限りハ思考ス云々本使ハ以上内話ノ好意ヲ謝

シタル上印度支那ニ関シ仏商業會議所カ依然トシテ日本ヲ

以テ仏工業ト競争スルモノトノ誤解ヲ抱クヲ指摘シテ繰返
シ説明シタルニ対シ先方ハ之ヲ諒シ日本ノ希望カ最低税率

離ノ遠隔ト運送費ノ關係上歐州市場ニ出スヲ不利益トス
ルモノアリ印度支那ハ其近隣諸邦ヨリ何物ヲモ購フコト
ナク又何等ノ對償ヲモ提供スルコトナクシテ然モ自家特
産ノ米石炭木材ヲ其近隣諸邦ニ輸出センコトヲ望ムハ不
可能ナリ

吾人ハ印度支那派遣委員カ日本滯在中ニ於テ為シタル会
談、印度支那ノ商業界ヲ代表スル有資格者カ日本工業界
ノ新ランキ情況ニ就テ為シタル調査、日本官界ノ人々ノ
ミト云ハス民間人士ノ間ニマテ抱持サレシツアル對仏新
感情及吾人ノ本問題ニ関スル一層深キ研究力終ニ從来ノ
不讓歩的精神——過去ニ於テハ理由アリタルヤモ知レサ
ルモ現今ノ情勢ノ下ニハ全然無意味ナル——ヲ掃スル
ニ至リ反対論者ヲ妥協ニ導キ且兩國間ヲ連結スル合理的
ナル通商協約ノ改訂カ相互ノ利益ノ為ミニ有益ニ遂行セ
ラレンコトヲ期待スルモノナリ云々

總督ハ日本ヨリノ帰途京城、奉天、北京、廣東ノ行旅ヲ語
り論決シテ曰ク

斯ノ如クシテ余カ成シ遂ケタル極東全体ノ旅行ハ余ラシ
テ印度支那カ極東ニ於テ第一位ヲ占ムルコトヲ看取セシ

メタリ余ハ全印度支那ノ人士カ其眼界ヲ自己ノ領土内ニ

局限スルコトヲ輒メテ宜シク之レヲ遠キニ及ホシ亞細亞

ニ於ケル我仏蘭西カ使命トシテ負フル所ノ支那海及太平

洋ニ於テ勤ムヘキ大役割ノ何物ナルカニ就キテ明瞭ナル

智覚、確実ナル智識及完全ナル了解ヲ持タンコトヲ希フ

モノナリ云々

右ハ明ラカニ商工会一派ノ僻論者ニ暗示シタル警告ニ有之

飽ク迄モ対日協定ヲ必要トル総督ノ決意ノ動カスヘカラ

サルコトヲ示スモノニ有之候

右演説中尚未注意ニ值スル一事ハ「日本政府側ハ最低税率

単純適用問題ニ関スル當方側ノ真剣ナル弁論ヲ諒シ現今一

般税率適用ノ仮定ノ下ニ(.....de se placer dans l'hypothèse

actuelle de l'application du tarif général....) 日本カ必

要ト思考スル該税率ノ変更ヲ指示スルコトヲ認容シタリ云々」トアルコトニ有之此一節ハ「キルシヨー」税務長官カ

先ツ本国一般税率ヲ適用シテ然ル後日本ト衝撃セントスル

趣旨ヲ間接ニ否認スルモノト認メ差支ナキコトニ有之候

総督ノ演説中外政ニ關スル部分ノミ切抜キ茲ニ添付致シ置

候ニ付委細右ニテ御承知相成度此段報告申進候 敬具

然ル处「メルラン」総督ハ過般総督府諮詢会開会当日ノ演

説中ニ日本トノ通商協定力寧ロ印度支那ノ為メニ必要ナル

コトヲ明言シ印度支那ノ凡テノ仏人ハ從来ノ偏狭ナル見解

ヲ捨テ日本ト妥協シ極東ニ發展セサルヘカラサル印度支那

ノ使命ヲ完フル心掛ナカルヘカラストノ意ヲ声明シ暗ニ

商工会一派ノ頑迷者流ノ反省ヲ促シ、之レニ対シ L'Avenir

du Tonkin 紙主筆「ダンドロー」氏ハ自己年来ノ主張カ

総督ノ正式声明ニ依リ確認サレタルコトヲ喜フト云ヒ同時

ニ恰モ総督ノ對日政見發表ト前後シテ當地 Le Courrier d'

Haiphong 紙上ニ転載サレタル在巴里印度支那商工会ノ對

日関税讓歩反対決議ヲ反駁シ商工会ノ態度ヲ以テ印度支那

ノ将来ト多數消費者ノ利益ヲ犠牲ニシテ私利ノ擁護ヲ計ル

モノナリト非難シタルコトハ別信通送第一四五号及通送第

(省略)一四七号ヲ以テ夫々報告申進候通リニ有之候

然ルニ茲ニ不思議ナルハ總督ノ暗示及「ダンドロー」氏ノ

挑戦的銳鋒ニ対シ「フランス・アンドシンヌ」紙カ今日迄

一言一句ヲモ酬ヒス全然沈黙シツアルコトニ有之又更ニ

面白キハ「ル・クーリエ・ダイフォン」主筆 Le Gac 氏

カ十一月三十日ノ紙上ニ於テ左ノ如キ記事ヲ掲ケタルコト

本信写送付先

在仏 石井大使

在西貢 古谷領事

~~~~~  
在ハイフォン森領事ヨリ  
幣原外務大臣宛

印度支那ニ於ケル対日通商協定問題ニ対ス

ル新情勢報告ノ件

通送機密第一八号 (大正十四年一月六日接受)

大正十三年十一月三日 在海防

（大正十四年一月六日接受）

在海防

領事 森 新一 (印)

印度支那ニ於ケル対日通商協定問題ニ対スル

新趨勢報告ノ件

今春「メルラン」総督日本ヨリ帰来後非公式ニ発表シタル

対日協調意見カ端ナクモ商工会一派ノ神經ヲ過敏ニシ当地

方ニ於テハ「フランス・アンドシンヌ」紙ヲ通シテ必死ノ

反対宣伝ヲ行ヒ「メルラン」総督排斥ニ近キ行動ニ迄出テ

タルコトハ既ニ委曲報告申進置候通リニ有之候

日本ト通商協議ニ關スル印度支那商工会ノ決議ヲ本社カ  
入手スルト同時期ニ總督ハ諮詢会席上ニ於テ同問題ニ關  
スル詳細ナル報道ヲ為シタリ此報道ハ本問題ニ關スル總  
テノ懸念ヲ打消シタリト見ラルベク、尚ホ總督ハ如何ナ  
ル条件ノ下ニ日本ニ於テ談合力行ハレタルカヲモ説明シ  
タリ、依テ事件ハ之レニテ終結シタリ、然シ此出来事ハ  
吾人ニ一ノ教訓ヲ与ヘタリ、夫ハ印度支那ノ公衆カ政府  
部内ニ起リツツアル事件ニ付実ニ不完全ナル情報ヲ与ヘ  
ラレツツアルコトナリ、本問題ニ就テハ成程商業會議所  
ハ相談ニ預リ居レリ然レトモ夫レ丈ヶニテハ不充分ナリ  
吾人カ不可解トスル所ハ本問題ニ付一團体カ除ケモノニ  
サレタルコトナリ此團体ハ其ノ本拠ヲ巴里ニコソ有スレ  
其神髓ニ於テハ印度支那團体ニ外ナラス又印度支那ニ於  
ケル仏蘭西ノ利益ノ大半ヲ結合シタル團体ナリ、対日通  
商協定問題ノ如キ重大ナル問題ニ關シテハ此團体ノ意見  
ヲ徵シ又事態ノ成行ハ逐一之レニ知ラシメ置クヘカリシ  
カ至当ナリシナリ云々 (別紙切抜参照)

右論法ニ依レハ今迄商工会ノ疑懼シタル所以ハ總督府側ノ

民間ニ与ヘタル情報カ不完全ナリシト同会ニ何等ノ相談ナカリシカ為メナリ今日ニ至リ総督ノ説明ニ依リ悉ク杞憂ナリシコトヲ知リ得タリト云フニ帰シ同会カ事件ノ内容ヲ審カニセサリシト云フハ一片ノロ実ニ過キス候モ反対派ノ記者（「クーリエ・ダイフォン」紙ノ前持主ハ目下商工会員ニシテ同会法律顧問ノ一人タル弁護士 de Lansalut 氏）ナル為メ同紙ハ同会ト因縁深ク同会ノ會議記事及決議等ハ常ニ同紙ニ掲載セラルルヲ例ト致シ候又「ル・ガック」氏ハ頗ル反日主義ノ鼓吹者ニ有之候モ今次ノ対日問題ニ関シテハ同紙上ニ一度モ筆ヲ執ラス遙ニ巴里ニ投書シ本年七月二十二日発刊 La Dépêche Coloniale 紙上ニ対日協定ノ不可ナルヲ論シタルコト有之自己紙上ニハ努メテ仏本国新聞紙上ニ頭ハレタル対日協定反対論ヲ転載シ陰ニ商工会一派ニ応援致シ居リタル次第ニ候ノ一人カスノ如キ筆法ヲ弄スルニ至リタルト前記「フランス・アンドシンヌ」ノ沈黙トハ印度支那ニ於ケル商工会一派ノ氣勢力挫ケ初メタル徵候ト被察候却説東京地方ニハ從来前記「ダンドロー」氏ノ如キ或ハ L' Eveil Economique 誌主筆 Cucherousset 氏ノ如キ安

要スルモ大体ノ傾向好望ナリト同氏ハ申居リ候海防商業会議所ハ河内ニ引摺ラレ居ル立場ニ在ルニ付懸念ニモ及ヒ不申唯濟度シ難キハ西貢商業會議所ノ一団ニシテ例ノ「キルシェー」氏ノ内意ニ依リ同氏帰來迄一切ノ調査ヲ見合セ居リ候由然シ此際一西貢商業會議所ノ進退ハ輿論ノ大勢ニ何等影響スヘキ筋ノモノトモ思ハレス候。是ニ於テカ飽ク迄モ疑問ナルハ河内ニ於テ全然口ヲ噤ミタル「キルシェー」氏ノ西貢ニ於テ發表シタル本国一般税率適用意見ニ有之候最近「グラヴィツ」氏ニ就キ此件ニ関スル其後ノ情報ヲ尋ネタルニ依然疑問ノ儘ナリト云ヒ「彼レハ（キルシェー氏）極東一ノ嘘ツキナリ」ト眞面目ニ付ケ加ヘ候尚ホ此本国一般税率適用問題ニ就キテハ當地方ニ於ケル対日関税讓歩反対派ノ筆頭タル東京紡績会社夫レ自身モ大反対ノ由ニ有之候夫ハ右税率適用ノ結果ハ同会社ノ需要スル原料印度綿花カ重稅ヲ課セラルルコトトナリ當業上ノ大打撃トナルカ故ニ有之候又消費者側ニ属スル農業會議所ノ如キモ本税適用ニハ反対ノ由及聞居候尚又総督カ「グラヴィツ」氏ノ質問ニ對シ確言シタルコト（本年十月二十七日付機密通送第一七号参照）及ヒ今回ノ演説中ニ「日

南選出総督府評議員 de Montpezzat 氏ノ如キ印度支那ノ極端ナル保護関稅政策ヲ非難シ日本トノ通商協定ヲ可トスル論者有之之レカ一般ノ輿論ヲ代表スルモノニ有之候モ印度支那ノ伝統的情弊タル資本家團体商工会一派ノ勢力旺盛ニシテ歴代ノ総督モ右一派ノ意志ニ迎合スルヲ努メタル傾向有之從シテ民間非資本家團一味ノ主張ハ是迄印度支那官所信ヲ主張シテ憚ラス即チ「メルラン」総督ノ対日政見ハ赴キ「クローデル」大使ノ意見ヲモ聞キ時勢ノ変転ニ着眼スル所アリ帰來從来ノ情実ニ頓着スルコトナク自家獨特ノ偶然在来ノ印度支那ノ一般輿論ト逢着シタルモノニ有之候、唯總督府部内ニハ保護關稅政策ノ擁護者ヲ以テ自ラ任シ隨テ商工会派ヨリ嘱望サレ居ル「キルシェー」稅務長官カ其要路ニ当リ総督ノ政策ヲ裏切ル如キ措置ニ出ツルハ注意スヘキ事実ト存候。

翻テ日本ノ要求ニ對スル商業會議所團其ノ他ノ態度ヲ見ルニ河内ノ「グラヴィツ」氏ハ日本ヨリ帰還以来自己會議所内ノ空氣ヲ更ムルコトニ終始渝ラサル努力ヲ用ヒ居リ其結果昨今ニ於テハ頑強分子モ漸次改宗シ今一意氣ノ努力ヲ

右報告申進候 敬具

本信写送付先

在仏石井大使 在西貢古谷領事

二〇五 十二月十日

幣原外務大臣ヨリ  
在ハイフォン森領事宛

日本ノ要求ノ対象トナル税率ニ関シ再回報ノ件  
通総調機密第五号

大正十三年十二月十日

幣原大臣

在海防

森領事

河内商業會議所ノ質問ニ関スル件

貴信八月十九日付機密通第一三号ノ説明トシテ更ニ機密通第一四号ヲ以テ御報告ノ次第有之候處右貴信中ノ一二於テ

「印度支那ニ適用セラレ居ル」ナル文字ハ意義ナキコトニ

解セラル趣ノ貴見ニ候ヘ共當方トシテハ右ノ点ニ最モ重キヲ置キ居ル次第ニ有之即チ本邦品ニ対シ原則トシテ我要

求スル印度支那ノ適用税率ハ十二月十日付通総調機密第四号ヲ以テ申進候通り单ニ最惠国待遇乃至衡平ナル待遇ニ過

貴電第五二五号ニ関シ

一、往電第九四号及第九五号記載諸事項中、大部分ハ條約其ノモノノ修正ヲ行ハスシテ解釈ヲ決定スル為ノ公文交換ニ依ルモ目的ヲ達シ得ヘキ性質ノモノナルニ因リ必シモ条約全文ノ逐条商議ヲ経ルノ要ナシト認メラレ又先方ニ於テ独逸トノ間ニ仮ニ中間税率ノ基礎ニヨリ新条約ヲ締結シ得タリトスルモ往電第三七三号ニモ縷縷記載ノ通り仏國ニ於テ他ノ第三国ニ対シ無制限最惠国待遇ヲ与ヘ居ルモノアル以上我從來ノ主張ヲ拠棄スルコトヲ得ス旁々我方トシテハ仏獨条約交渉ヲ俟ツノ必要モ無カルヘシト存セラルニ付貴方ニ於テモ一應御攻究ノ上差支ナシト認メラルニ於テハ此ノ際前記往電第九四号及第九五号記載ノ諸事項ニ関シ意見交換ノ結果条約正文ヲ先方ニ通セラレタシ尤モ右意見交換ノ結果条約正文ノ修正ヲ要スルモノヲ生シ右修正ニ付議会ニ付議ヲ必要トスル場合ニハ現行日仏条約調印ノ際ニ於ケル先例ノ如ク協議纏マリタルモノノ内税率ニ関スル部分ノミニ付不取敢暫定取極ノ形式ヲ以テ之ヲ実施スルコトトシ差支ナシ

キス從テ本邦トシテハ右公信ニモ記載ノ通別国ニ比シ不利ナル差別待遇ヲ受クルヲ好マサル次第ニテ右ノ差別ナキ限リ即チ別国一般ニ対シテ均シク適用セラル限リ印度支那又ハ仏本国ノ工業保護ノタメ現ニ綿織糸其ノ他ニ於テ実行シ居ル通リ印度支那ニ於テ仏本国ノ最低税率トハ別ニ其ノ最低税率ヲ引上クルコトアルモ何等ノ異存アル次第ニハ無之且又本邦側ニ於テハ更ニ妥協ノ精神ヲ以テ欧米品ヨリモ距離ノ近接セルカ為運賃上生スル本邦品ノ利益ハ夫レ丈歐米品待遇以下ニテモ満足セムトセル次第ニ候即チ前記字句ノ意義ハ本邦側トシテハ仏本国ノ最低税率ト異ナル高率ノ最低税率ノ印度支那ニ実施セラルコトアルモ異存ナキ趣旨ニ有之候從テ一般税率ト最低税率トノ差額ノ大小如何ハ本邦ノ主張上何等関係無之次第ニ有之候叙上既ニ御氣付キノコトトハ思考候ヘ共右為念申進候也

二〇六 十二月十三日

幣原外務大臣ヨリ  
在仏石井大使宛（電報）

条約改正ヲ取り敢エズ暫定協商トスルコトニ  
対スル我方ノ意向回報ノ件

第三四四号

二、贅沢品関税ニ付テハ往電第三七三号ニモ記載ノ通本邦ニ於テハ過去ニ於ケル仏國ノ態度ニモ鑑ミ五個月ノ猶予期間ヲ俟タスシテ即時実施ノ意向関係省ニアリタルモ兔ニ角議定書ノ趣旨ニ依リ右期間ヲ俟チ又期間後モ去大正九年葡萄酒等ノ関税引上ケノ場合ニ実行シタルト等シク全テノ物品ニ対シ夫夫条約所定ノ比率ニ従ヒ輕減率ヲ適用スル積リナルモ現行協定従量税率其ノ儘ヲ適用スルカ如キコトニハ到底不可能ナル次第ナリ尚今回ノ贅沢品関税ノ場合ニ於テハ其ノ実施ニ当リ上記ノ如ク条約所定ノ猶予期間ヲ設クルコトセルモ仏國政府ニ於テ此ノ際往電第三七三号一冒頭記載ノ事項タケニテモ協定ニ達セサル限り今後ノ本邦関税改正ニ於テ仏國側主張ノ趣旨ヲ參酌シ右ニヨル関税引上ケカ當該物品ノ物価騰貴指数ニ達セサル程度迄ハ右関税引上ヲ即時ニ実施スルノ止ムナキニ至ルヘキニ付右事情御説明ノ上前記議定書ノ猶予期間ニ関スル解釈決定方先ツ以テ御交渉相成度シ尚税率問題ニ關シ近年日本仏本国間貿易ハ輸出入額殆ト同一トナリタルカ為從來仏國側ニ於テ採リタル如キ強硬ナル態度ハ困難トナリタル次第ハ御含置相成度シ

一〇七 十二月二十七日 (幣原外務大臣ヨリ)  
在仏國石井大使宛 (電報)

答札使節ノ内定ニツキ仏國政府ニ申シ入レ方

訓令ノ件

第四二一号

往電第三五九号ニ閲シ答札使ハ山県枢密顧問官ニ内定在本邦仏國大使ヨリ本国政府ニ電報シタル旨ナルモ時宜ニ応シ仏國政府ヘ然ルヘク申入ラレタシ未タ隨員ノ任命ナキモ一行ハ一月二十四日頃横浜出帆ノ仏國船ニテ海防ニ直航ノ旨ナリ右出発期日ハ大体往電第三三五号印度支那總督ノ希望ニ基キ決定シタル次第ナルカ「キルシェー」氏ハ答札使到着迄ニ帰任スヘキヤ承知シ度ク猶又印度支那關稅問題ニ付テハ貴電第四四五号及第五(省略)一八号ノ次第モアル處仏國側ニ於テハ「キルシェー」氏ヲシテ同問題ニ付該地ニテ重テ下協議ヲ為サシムルノ意向アル次第ナリヤ至急貴地當局ニ就キ御確カメノ上電報相成度シ

往電第三五九号ニ閲シ山県枢密顧問官答札使 (Envoyé Spécial) 任命方ニ付キ仏國大使ト協議シタルニ同大使ニ於テハ右ニ付キ別ニ仏國政府又ハ總督ノ回答ヲ俟シニ及ハストノ意見ナリシニ依リ右任命本日發表セリ隨員ハ決定ノ上ニテ電報スヘシ

一〇八 十二月二十九日 (幣原外務大臣ヨリ)  
在仏國石井大使宛 (電報)

答札使節ノ任命發表ニ閲スル件

第四二四号

往電第四二一号ニ閲シ山県枢密顧問官答札使 (Envoyé Spécial) 任命方ニ付キ仏國大使ト協議シタルニ同大使ニ於テハ右ニ付キ別ニ仏國政府又ハ總督ノ回答ヲ俟シニ及ハストノ意見ナリシニ依リ右任命本日發表セリ隨員ハ決定ノ上ニテ電報スヘシ

## 事項六 日ソ漁業問題

一〇九 一月八日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ

松井外務大臣宛

力ラハン提議ノ漁業林業特權交渉委員本邦派遣ニ閲シソノ利用方意見具申ノ件

機密第四号

大正十三年一月八日

在浦潮

総領事代理 渡辺 理恵 (印)

外務大臣男爵 松井 康四郎殿

「カラハン」提議ノ漁業林業特權交渉委員利用

ニ閲スルノ件

本件ニ閲シテハ客年末日付機密第三一二二号拙信中卑見略述ニ及置候次第有之候処本官ハ該「カラハン」提議ノ内容實質乃至我方ノ御心酬振如何等ニ閲シテハ邦字新聞乃至機密拙信第二七五号同三〇一号及第三〇四号等露側ノ材料以外未タ承知不致候ヘ共新聞等ノ伝フル所ニ拠レハ政府ニ於テ

尚クローデル大使ハ最近印度支那ヲ経テ着任セル參事官ノ報告ニ依リ巴里及印度支那ニ於テ何レモ此ノ際日本ニ対シ何等カノコトヲ為シタキ意向ヲ有スルハ明カナリトテ幾分樂観的口氣ヲ洩シ且我ミッショント印度支那當局トノ間ニリ大使ト印度支那總督トノ間ニ此ノ点ニ付何程意思ノ疏通税ニ付テノ協議アルハ寧ロ當然ノ如クニ思考シ居ル様子ナリアヤ明カナラサルモ為念申添フ

「カラハン」提議内容条件等ニ閲シ在支公使ヲ介シテ稍具体的ニ説明方御交渉中ノ趣ニ有之御尤モ至極ノ儀ト存候然ルニ本件提議ノ裏面ニハ委員一行派遣ノ機ヲ利用シ例ノ主義宣伝ヲ為サントノ底意アラスヤ尠ク共斯ノ如キ表面奇麗ナル提議ヲ為シテ我労働階級ノ同情ヲ贏チ得遂ニ彼等ヲ赤化セシメントノ野心乃至漁業ニ閲シ本件ニ依リ我方カ既得権トシテ固持セル本年度ノ出漁問題ヲ攪乱シ先方ノ有利ニ解決セントノ深謀ニ出テタルニアラスヤ等ノ疑念ヲ本官モ一応相懷キタル処ニシテ我當局ニ於カセラレテモ此等ノ疑惑ニ考慮ヲ払ハレ目下御精査中ノコトト拝察致サレ候ヘ共又他面ヨリ觀察スレハ露側ハ「ヨツフエ」以来帝国ト正式交渉ヲ希望シ曩ニ「カラハン」ヨリ之カ開始ノ提議ヲ為シタルニ我方ヨリハ今ニ応諾ノ明答ナキ(是ハ本官ノ想像ニ有之候)ヲ以テ手ヲ換ヘ品ヲ換フヘク即チ先ツ本委員一行ヲ本邦ニ派遣シテ本問題ヲ種ニ機會ヲ作リテ追テハ一般的交渉ニ導カントノ巧妙ナル運動ニアラスヤトモ考ヘラレ候果シテ然ラハ今日我方カ之ヲ容レテ委員一行ヲ入国セシメ